

令和4年度
第6回市政モニターアンケート

暴力団排除について

北九州市広報室広聴課

目 次

I	調査の概要	1
II	市政モニターの構成	1
III	調査結果	2
(1)	「福岡県暴力団排除条例」の認知度	2
(2)	「福岡県暴力団排除条例」の内容の認知度	3
(3)	「北九州市暴力団排除条例」の認知度	4
(4)	「北九州市暴力団排除条例」の内容の認知度	5
(5)	暴力団排除条例に関する市民講演等への参加の意向	6
(6)	暴力団排除条例に関する市民講演等へ参加したくない理由	7
(7)	暴力団排除への関心の程度	8
(8)	暴力団に関する情報の入手方法	9
(9)	暴力団をどのような存在と考えるか	10
(10)	報道の中で暴力団(員)に対する脅威を感じた経験の有無	11
(11)	報道の中で脅威と感じた内容	12
(12)	実生活の中で暴力団(員)に対する脅威を感じた(被害を受けた)経験の有無	13
(13)	実生活の中で脅威と感じた(被害を受けた)内容	14
(14)	暴力団被害に関する相談窓口(相談ダイヤル)の認知度	15
(15)	暴力団を利用してのもめごとの処理についての考え	16
(16)	暴力団対策法の認知度	17
(17)	暴力団員から被害を受けた場合の対応	18
(18)	不当な要求を排除するために必要な環境	19
(19)	暴力団排除に向けて今後必要な行政の施策	20
(20)	市民の暴力団排除意識を高揚させるためのPR方法	21
(21)	行政が主催する暴力追放に関する活動への参加の意向	22
(22)	行政が主催する暴力追放に関する活動へ参加したくない理由	23
(23)	青少年の非行問題と暴力団の関係の認知度	24
(24)	行政が行う青少年に向けた暴力団排除の取組みに対する考え	25
(25)	行政が行う青少年に向けた暴力団排除の取組みに賛成しない理由	26
(26)	暴力追放推進施策に関する意見	27
IV	全体考察	30

I 調査の概要

調査対象者	市政モニター	149人
回答者数	138人	(回収率 92.0%)
調査実施日	令和4年9月12日～令和4年9月26日	
実施方法	調査票による郵送及びインターネット調査	
調査実施課	北九州市広報室広聴課	TEL582-2527
調査依頼課	北九州市市民文化スポーツ局安全・安心推進課	TEL582-2911

II 市政モニターの構成

R4.9.12

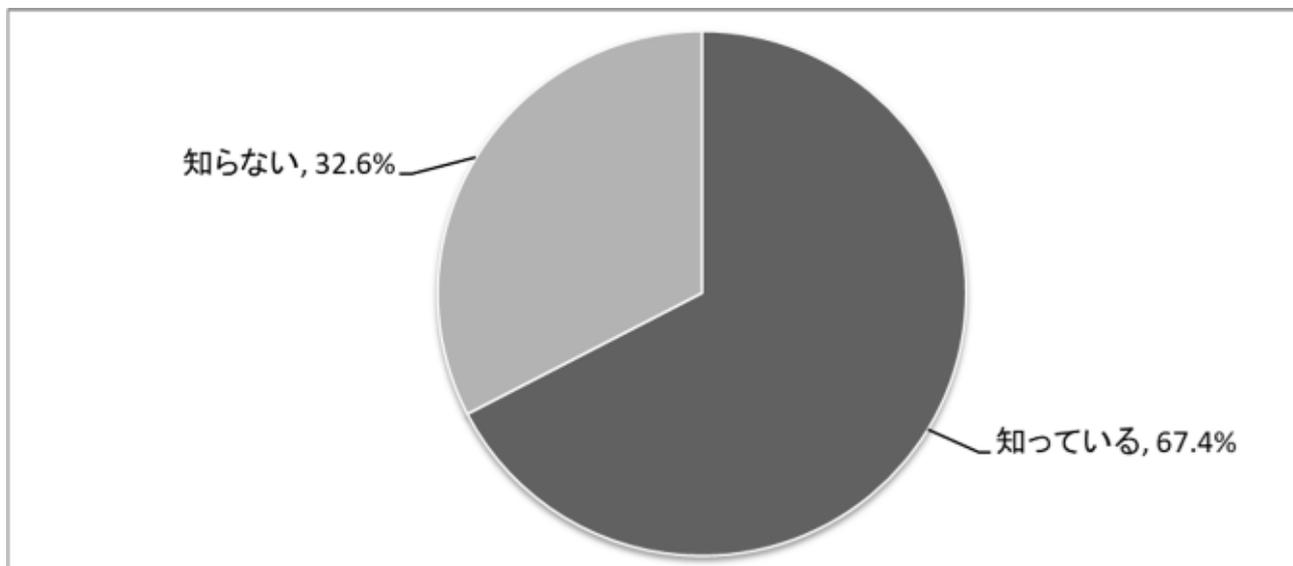
区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	149 (100.0%)	64 (43.0%)	85 (57.0%)	区 別			
10歳代	2 (1.3%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)	門司区	19 (12.8%)	10 (6.7%)	9 (6.0%)
20歳代	19 (12.8%)	9 (6.0%)	10 (6.7%)	小倉北区	28 (18.8%)	13 (8.7%)	15 (10.1%)
30歳代	22 (14.8%)	4 (2.7%)	18 (12.1%)	小倉南区	31 (20.8%)	12 (8.1%)	19 (12.8%)
40歳代	25 (16.8%)	11 (7.4%)	14 (9.4%)	若松区	11 (7.4%)	4 (2.7%)	7 (4.7%)
50歳代	23 (15.4%)	11 (7.4%)	12 (8.1%)	八幡東区	11 (7.4%)	4 (2.7%)	7 (4.7%)
60歳代	25 (16.8%)	13 (8.7%)	12 (8.1%)	八幡西区	37 (24.8%)	14 (9.4%)	23 (15.4%)
70歳以上	33 (22.1%)	16 (10.7%)	17 (11.4%)	戸畑区	12 (8.1%)	7 (4.7%)	5 (3.4%)

※モニター総数149名のうち郵送モニター24名、ネットモニター125名

※数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は、一致しない場合があります。

Ⅲ 調査結果

問1 平成22年4月に施行された、事業者から暴力団への悪質な利益供与等に対し、全国初の罰則を定めた「福岡県暴力団排除条例」をご存じですか？

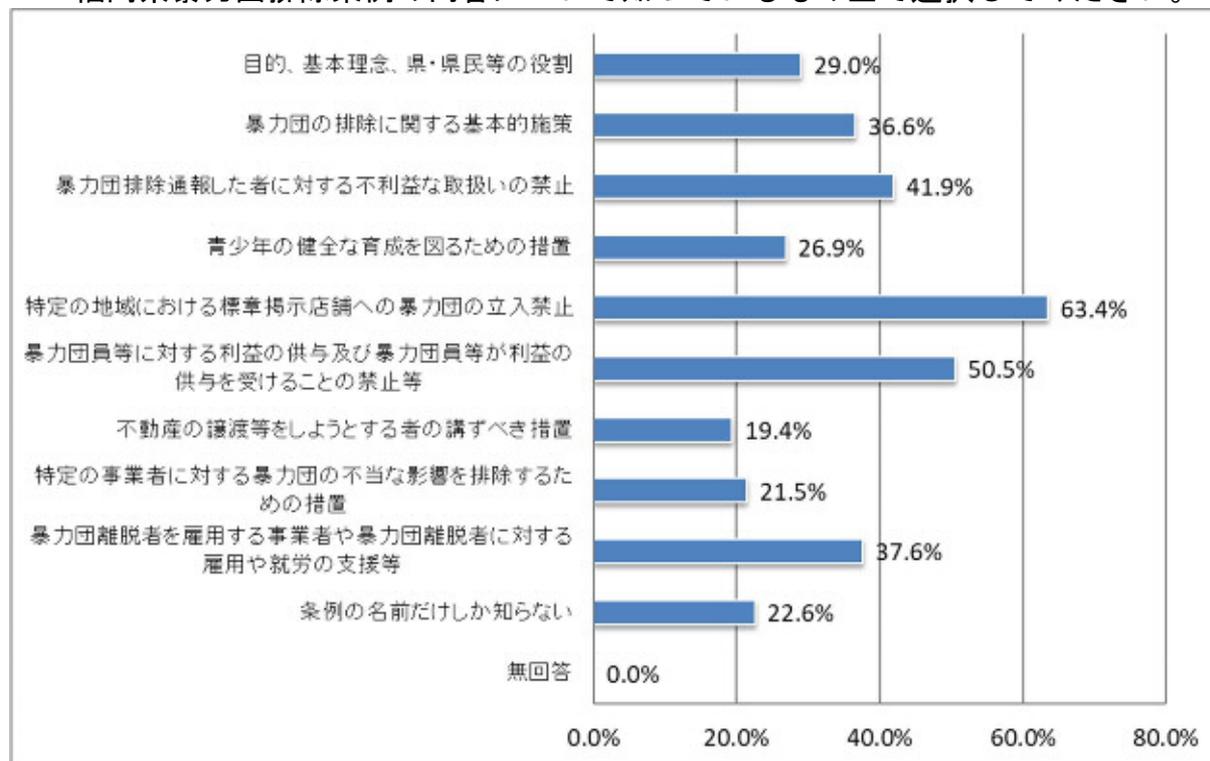


		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		138人	67.4%	32.6%	0.0%
性別	男性	59人	79.7%	20.3%	0.0%
	女性	79人	58.2%	41.8%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	46.2%	53.8%	0.0%
	30歳代	20人	70.0%	30.0%	0.0%
	40歳代	25人	64.0%	36.0%	0.0%
	50歳代	23人	73.9%	26.1%	0.0%
	60歳代	24人	54.2%	45.8%	0.0%
	70歳以上	33人	81.8%	18.2%	0.0%
区別	門司区	18人	77.8%	22.2%	0.0%
	小倉北区	26人	84.6%	15.4%	0.0%
	小倉南区	26人	57.7%	42.3%	0.0%
	若松区	10人	80.0%	20.0%	0.0%
	八幡東区	10人	50.0%	50.0%	0.0%
	八幡西区	37人	54.1%	45.9%	0.0%
	戸畑区	11人	81.8%	18.2%	0.0%

福岡県暴力団排除条例の全体の認知度は67.4%であり、前回調査の64.9%から増加している。

問2 問1で「1 知っている」と答えた方のみご回答ください。

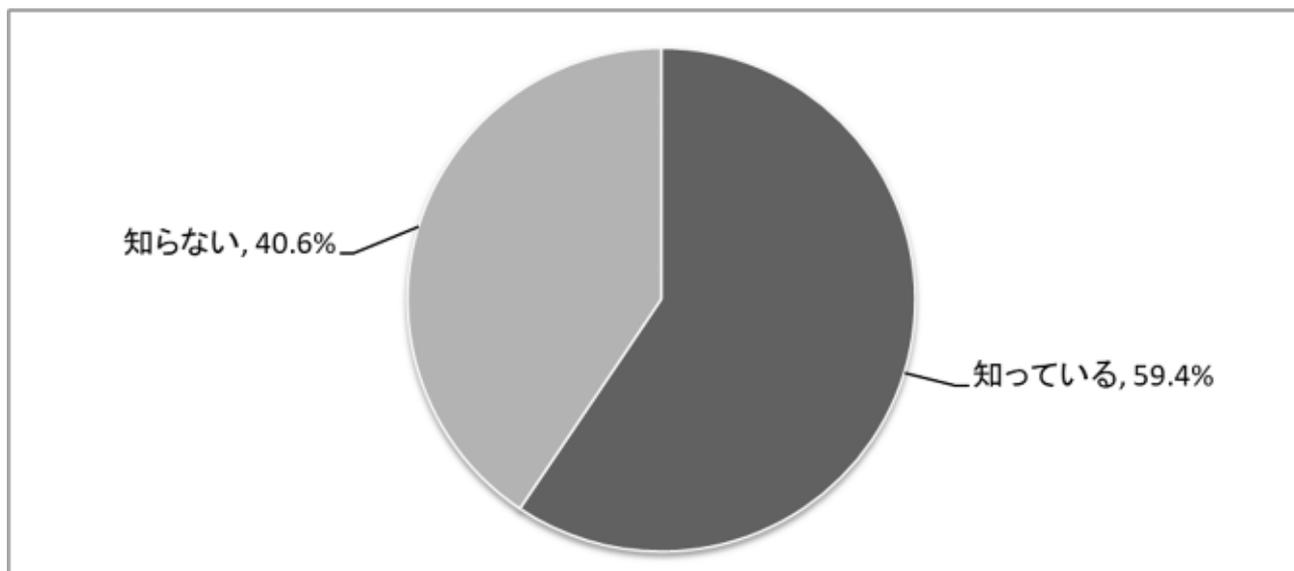
福岡県暴力団排除条例の内容について知っているもの全て選択してください。



	回答者数	目的、基本理念、県・県民等の役割	暴力団の排除に関する基本的施策	暴力団排除通報した者に対する不利益な取扱いの禁止	青少年の健全な育成を図るための措置	特定の地域における標章掲示店舗への暴力団の立入禁止	暴力団員等に対する利益の供与及び暴力団員等が利益の供与を受けることの禁止等	不動産の譲渡等しようとする者の講ずべき措置	特定の事業者に対する暴力団の不当な影響を排除するための措置	暴力団離脱者を雇用する事業者や暴力団離脱者に対する雇用や就労の支援等	条例の名前だけしか知らない	無回答	
全体	93人	29.0%	36.6%	41.9%	26.9%	63.4%	50.5%	19.4%	21.5%	37.6%	22.6%	0.0%	
性別	男性	47人	36.2%	42.6%	48.9%	38.3%	72.3%	61.7%	25.5%	34.0%	44.7%	12.8%	0.0%
	女性	46人	21.7%	30.4%	34.8%	15.2%	54.3%	39.1%	13.0%	8.7%	30.4%	32.6%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	6人	16.7%	33.3%	16.7%	16.7%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
	30歳代	14人	7.1%	28.6%	21.4%	14.3%	28.6%	21.4%	7.1%	0.0%	7.1%	42.9%	0.0%
	40歳代	16人	37.5%	50.0%	43.8%	50.0%	68.8%	50.0%	43.8%	31.3%	43.8%	18.8%	0.0%
	50歳代	17人	23.5%	17.6%	35.3%	11.8%	64.7%	35.3%	11.8%	23.5%	41.2%	23.5%	0.0%
	60歳代	13人	23.1%	23.1%	46.2%	15.4%	76.9%	61.5%	0.0%	23.1%	38.5%	15.4%	0.0%
	70歳以上	27人	44.4%	51.9%	59.3%	37.0%	77.8%	74.1%	29.6%	29.6%	48.1%	14.8%	0.0%
区別	門司区	14人	28.6%	35.7%	50.0%	21.4%	71.4%	64.3%	28.6%	28.6%	42.9%	28.6%	0.0%
	小倉北区	22人	36.4%	45.5%	40.9%	40.9%	63.6%	54.5%	22.7%	31.8%	50.0%	18.2%	0.0%
	小倉南区	15人	20.0%	13.3%	46.7%	26.7%	80.0%	46.7%	20.0%	26.7%	40.0%	26.7%	0.0%
	若松区	8人	50.0%	37.5%	25.0%	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	5人	40.0%	40.0%	40.0%	20.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	20人	20.0%	40.0%	40.0%	20.0%	55.0%	50.0%	25.0%	10.0%	25.0%	25.0%	0.0%
	戸畑区	9人	22.2%	44.4%	44.4%	22.2%	55.6%	55.6%	11.1%	22.2%	55.6%	22.2%	0.0%

福岡県暴力団排除条例の内容に関する認知度は、「特定の地域における標章掲示店舗への暴力団の立入禁止」が63.4%、「暴力団員等に対する利益の供与及び暴力団員等が利益の供与を受けることの禁止等」が50.5%、「暴力団排除通報した者に対する不利益な取扱いの禁止」が41.9%の順となっている。

問3 平成22年7月に市が施行した、「北九州市暴力団排除条例」をご存じですか？



		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		138人	59.4%	40.6%	0.0%
性別	男性	59人	72.9%	27.1%	0.0%
	女性	79人	49.4%	50.6%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	53.8%	46.2%	0.0%
	30歳代	20人	50.0%	50.0%	0.0%
	40歳代	25人	60.0%	40.0%	0.0%
	50歳代	23人	56.5%	43.5%	0.0%
	60歳代	24人	58.3%	41.7%	0.0%
	70歳以上	33人	69.7%	30.3%	0.0%
区別	門司区	18人	66.7%	33.3%	0.0%
	小倉北区	26人	69.2%	30.8%	0.0%
	小倉南区	26人	50.0%	50.0%	0.0%
	若松区	10人	60.0%	40.0%	0.0%
	八幡東区	10人	60.0%	40.0%	0.0%
	八幡西区	37人	51.4%	48.6%	0.0%
	戸畑区	11人	72.7%	27.3%	0.0%

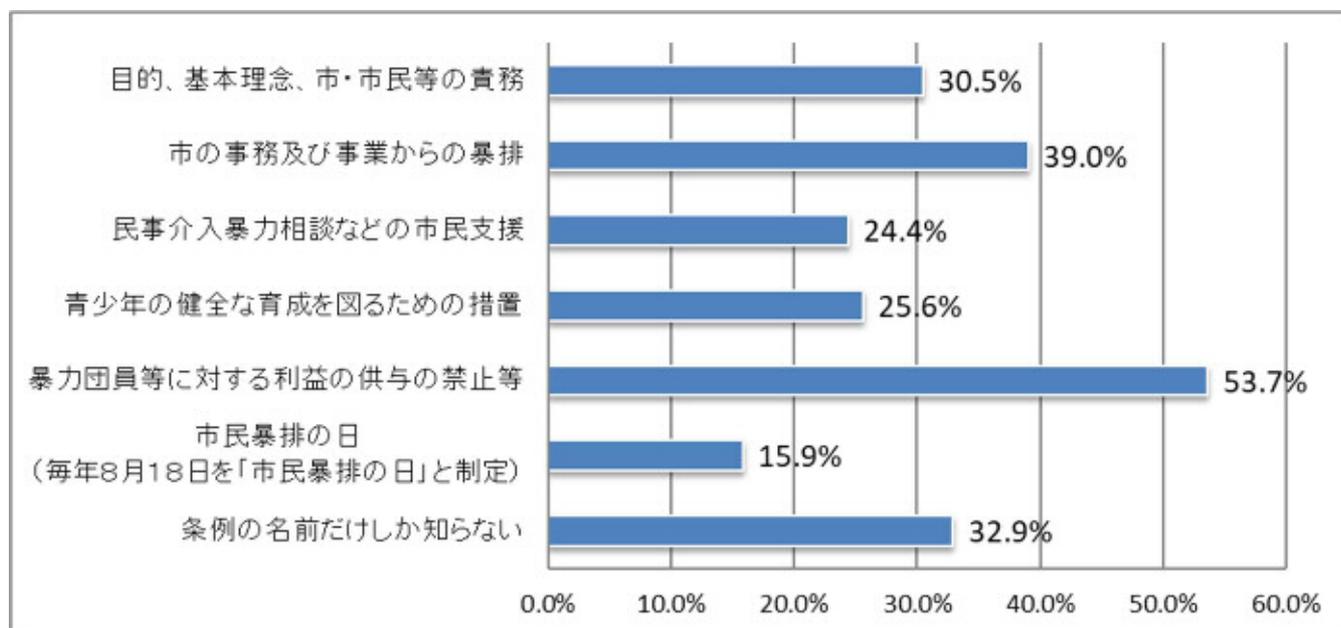
北九州市暴力団排除条例の全体の認知度は、59.4%であり、前回調査の54.5%から増加している。

年齢層別に見ると、70歳以上の認知度が69.7%と最も高く、30歳代の認知度が50.0%と最も低くなっている。

問4 問3で「1 知っている」と答えた方のみご回答ください。

北九州市暴力団排除条例の内容について、どの程度ご存知ですか？

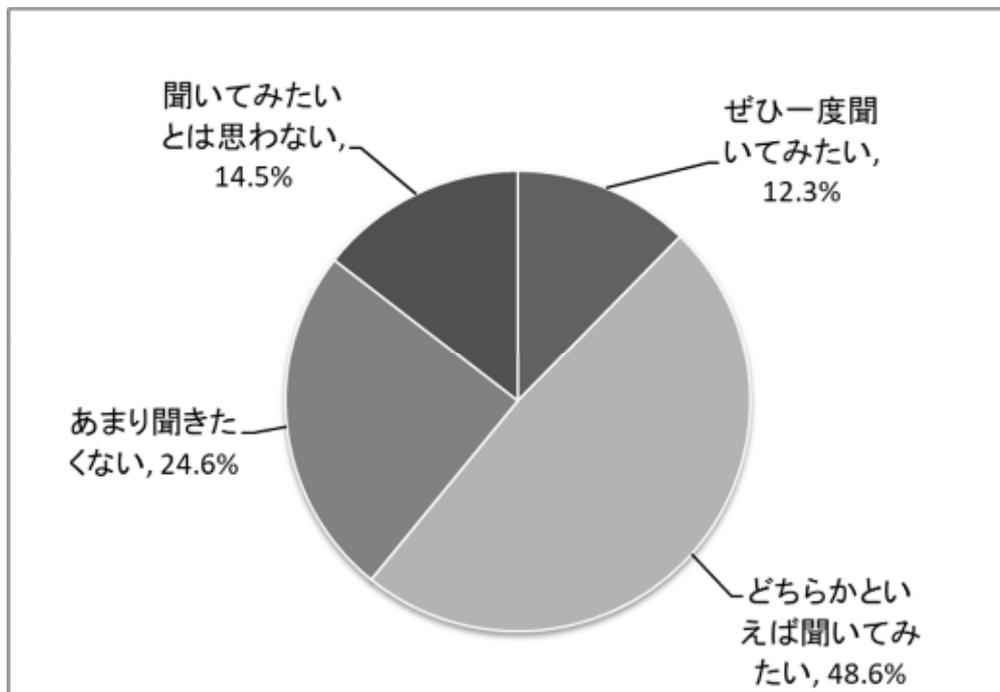
(知っているもの全て選択してください。)



	回答者数	目的、基本理念、市・市民等の責務	市の事務及び事業からの暴排	民事介入暴力相談などの市民支援	青少年の健全な育成を図るための措置	暴力団員等に対する利益の供与の禁止等	市民暴排の日 (毎年8月18日を「市民暴排の日」と制定)	条例の名前だけしか知らない	無回答	
全体	82人	30.5%	39.0%	24.4%	25.6%	53.7%	15.9%	32.9%	0.0%	
性別	男性	43人	37.2%	51.2%	23.3%	34.9%	67.4%	18.6%	44.2%	0.0%
	女性	39人	23.1%	25.6%	25.6%	15.4%	38.5%	12.8%	20.5%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	7人	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	42.9%	0.0%	57.1%	0.0%
	30歳代	10人	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%	30.0%	0.0%	60.0%	0.0%
	40歳代	15人	46.7%	46.7%	33.3%	46.7%	40.0%	20.0%	33.3%	0.0%
	50歳代	13人	30.8%	46.2%	38.5%	15.4%	38.5%	38.5%	30.8%	0.0%
	60歳代	14人	28.6%	28.6%	35.7%	7.1%	64.3%	14.3%	21.4%	0.0%
	70歳以上	23人	30.4%	60.9%	56.5%	43.5%	78.3%	13.0%	21.7%	0.0%
区別	門司区	12人	33.3%	50.0%	50.0%	25.0%	58.3%	16.7%	33.3%	0.0%
	小倉北区	18人	27.8%	44.4%	38.9%	44.4%	61.1%	27.8%	27.8%	0.0%
	小倉南区	13人	30.8%	53.8%	38.5%	23.1%	38.5%	15.4%	38.5%	0.0%
	若松区	6人	50.0%	66.7%	66.7%	33.3%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%
	八幡東区	6人	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%	16.7%	16.7%	0.0%
	八幡西区	19人	21.1%	21.1%	31.6%	15.8%	52.6%	5.3%	42.1%	0.0%
	戸畑区	8人	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	12.5%	50.0%	0.0%

北九州市暴力団排除条例の内容に関する認知度は、「暴力団員等に対する利益の供与の禁止等」が53.7%、「市の事務及び事業からの暴排」が39.0%で、前回と同様の傾向であった。前回は「民事介入暴力相談などの市民支援」が次点であったが、今回は「条例の名前だけしか知らない」が32.9%で次点となった。

問5 福岡県や北九州市の暴力団排除条例について市民講演などを開催するとした場合、参加して内容を聞いてみたいと思いますか？



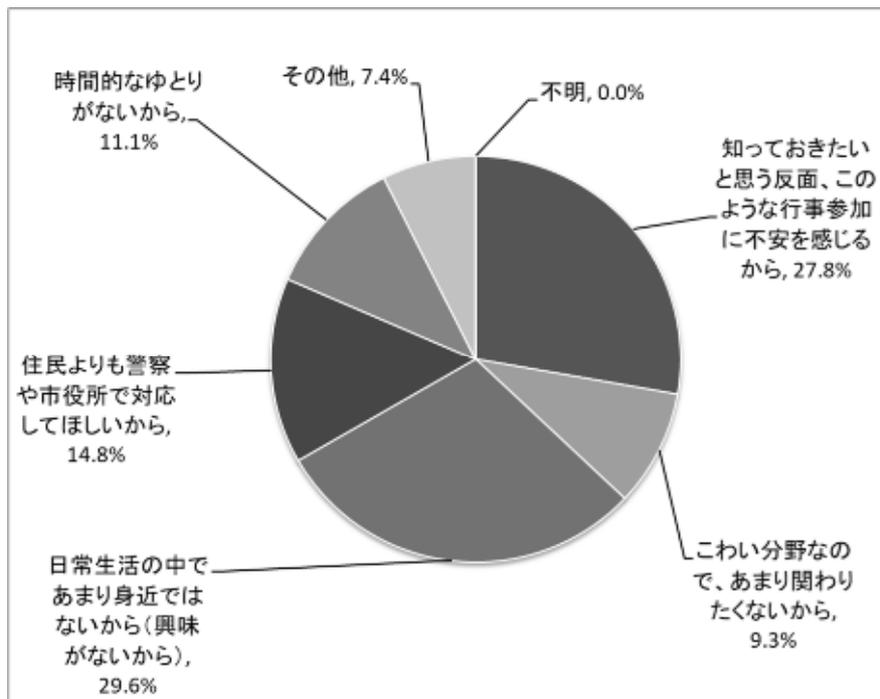
		回答者数	ぜひ一度聞いてみたい	どちらかといえば聞いてみたい	あまり聞きたくない	聞いてみたいとは思わない	無回答
全体		138人	12.3%	48.6%	24.6%	14.5%	0.0%
性別	男性	59人	13.6%	55.9%	22.0%	8.5%	0.0%
	女性	79人	11.4%	43.0%	26.6%	19.0%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	7.7%	46.2%	15.4%	30.8%	0.0%
	30歳代	20人	15.0%	30.0%	25.0%	30.0%	0.0%
	40歳代	25人	8.0%	60.0%	12.0%	20.0%	0.0%
	50歳代	23人	13.0%	39.1%	34.8%	13.0%	0.0%
	60歳代	24人	16.7%	54.2%	29.2%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	12.1%	54.5%	27.3%	6.1%	0.0%
区別	門司区	18人	11.1%	72.2%	5.6%	11.1%	0.0%
	小倉北区	26人	15.4%	34.6%	30.8%	19.2%	0.0%
	小倉南区	26人	7.7%	46.2%	30.8%	15.4%	0.0%
	若松区	10人	10.0%	50.0%	30.0%	10.0%	0.0%
	八幡東区	10人	0.0%	60.0%	30.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	37人	16.2%	43.2%	29.7%	10.8%	0.0%
	戸畑区	11人	18.2%	54.5%	0.0%	27.3%	0.0%

暴力団排除条例についての講演等に対するニーズは、

- 聞いてみたい層 60.9%
- 聞いてみたいとは思わない層 39.1%

【聞いてみたい層】は前回調査の47.8%から増加し、半数を上回った。

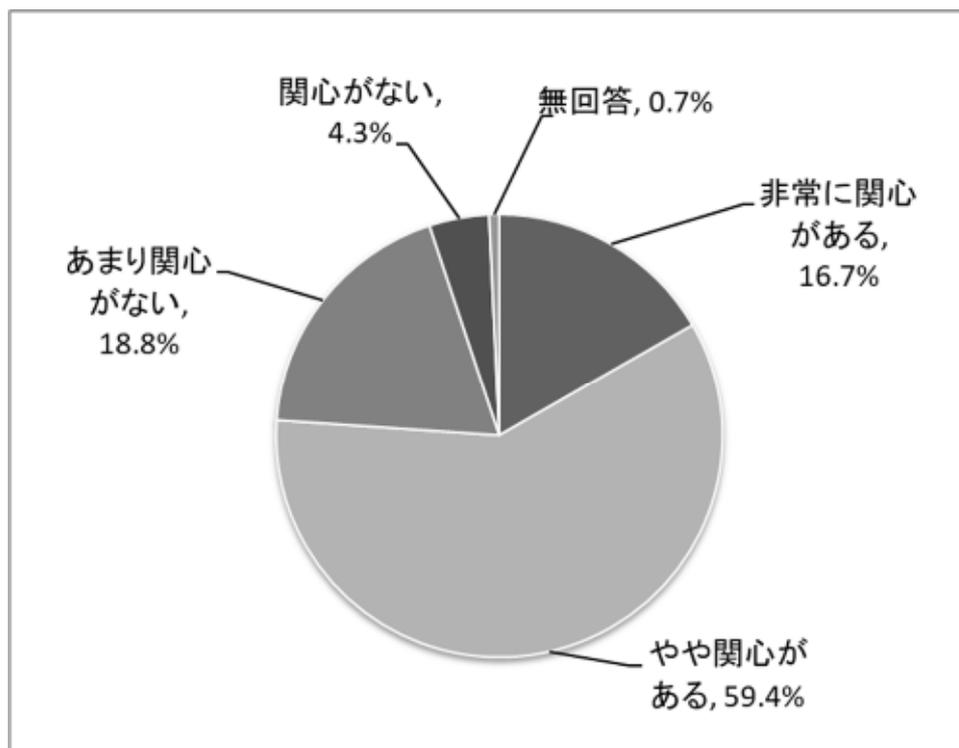
問6 問5で「3 あまり聞きたくない」「4 聞いてみたいと思わない」と答えた方のみ
ご回答ください。その理由は何ですか？（主なものを1つ選択してください。）



		回答者数	知っておきたいと思う反面、このような行事参加に不安を感じるから	こわい分野なので、あまり関わりたくないから	日常生活の中であまり身近ではないから(興味がないから)	住民よりも警察や市役所で対応してほしいから	時間的なゆとりがないから	その他
全体		54人	27.8%	9.3%	29.6%	14.8%	11.1%	7.4%
性別	男性	18人	27.8%	16.7%	27.8%	16.7%	5.6%	5.6%
	女性	36人	27.8%	5.6%	30.6%	13.9%	13.9%	8.3%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	6人	16.7%	0.0%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%
	30歳代	11人	18.2%	9.1%	36.4%	9.1%	18.2%	9.1%
	40歳代	8人	37.5%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%
	50歳代	11人	27.3%	0.0%	9.1%	27.3%	27.3%	9.1%
	60歳代	7人	28.6%	14.3%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%
	70歳以上	11人	36.4%	9.1%	45.5%	9.1%	0.0%	0.0%
区別	門司区	3人	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%
	小倉北区	13人	38.5%	7.7%	38.5%	0.0%	15.4%	0.0%
	小倉南区	12人	33.3%	16.7%	25.0%	8.3%	16.7%	0.0%
	若松区	4人	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%
	八幡東区	4人	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	八幡西区	15人	20.0%	6.7%	33.3%	26.7%	13.3%	0.0%
	戸畑区	3人	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%

暴力団排除条例についての講演等について、【聞いてみたいと思わない層】の理由としては、「身近ではなく興味がない」が29.6%と最も多く、前回調査の35.7%と同様の結果となった。次いで、【不安層】である「このような行事参加に不安を感じる」が27.8%、「こわい分野なので関わりたくない」が、9.3%を占めていた。次いで、「警察や市役所で対応してほしい」が14.8%、「時間的なゆとりがない」が11.1%、「その他」が7.4%の順となっている。

問7 暴力団排除について日頃、どの程度関心をお持ちですか？



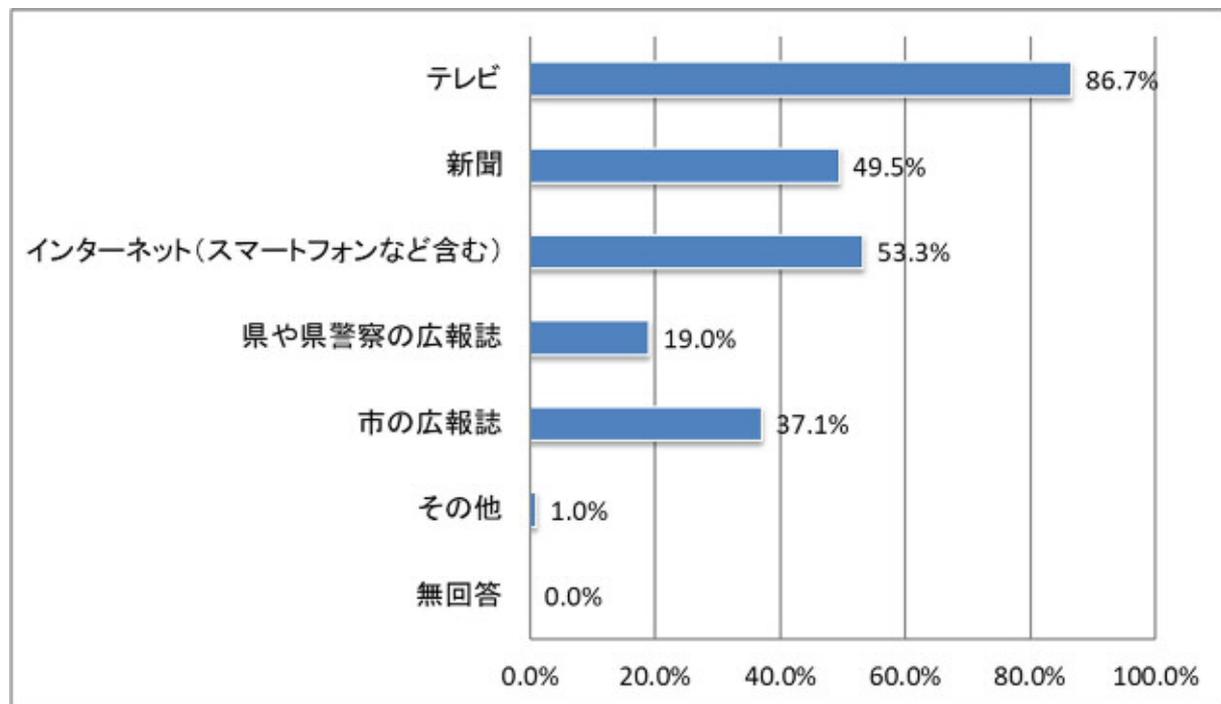
		回答者数	非常に興味がある	やや興味がある	あまり興味がない	関心がない	無回答
全体		138人	16.7%	59.4%	18.8%	4.3%	0.7%
性別	男性	59人	23.7%	61.0%	13.6%	1.7%	0.0%
	女性	79人	11.4%	58.2%	22.8%	6.3%	1.3%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	15.4%	23.1%	53.8%	7.7%	0.0%
	30歳代	20人	15.0%	55.0%	25.0%	5.0%	0.0%
	40歳代	25人	8.0%	76.0%	8.0%	8.0%	0.0%
	50歳代	23人	13.0%	69.6%	13.0%	4.3%	0.0%
	60歳代	24人	16.7%	70.8%	12.5%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	27.3%	48.5%	18.2%	3.0%	3.0%
区別	門司区	18人	27.8%	50.0%	16.7%	0.0%	5.6%
	小倉北区	26人	15.4%	50.0%	26.9%	7.7%	0.0%
	小倉南区	26人	11.5%	61.5%	15.4%	11.5%	0.0%
	若松区	10人	10.0%	70.0%	10.0%	10.0%	0.0%
	八幡東区	10人	10.0%	60.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	37人	10.8%	70.3%	18.9%	0.0%	0.0%
	戸畑区	11人	45.5%	45.5%	9.1%	0.0%	0.0%

「暴力団排除」に関する関心度については、

- 関心がある層 76.1%
- 関心がない層 23.9%

となり、【関心がある層】は前回調査の64.2%から増加した。年齢層では、特に40～60歳台の関心が高い。

問8 問7で「1 非常に興味がある」「2 やや興味がある」と答えた方のみご回答ください。暴力団に関する情報を普段どういったメディアから入手していますか？
 (あてはまるものを全て選択してください。)

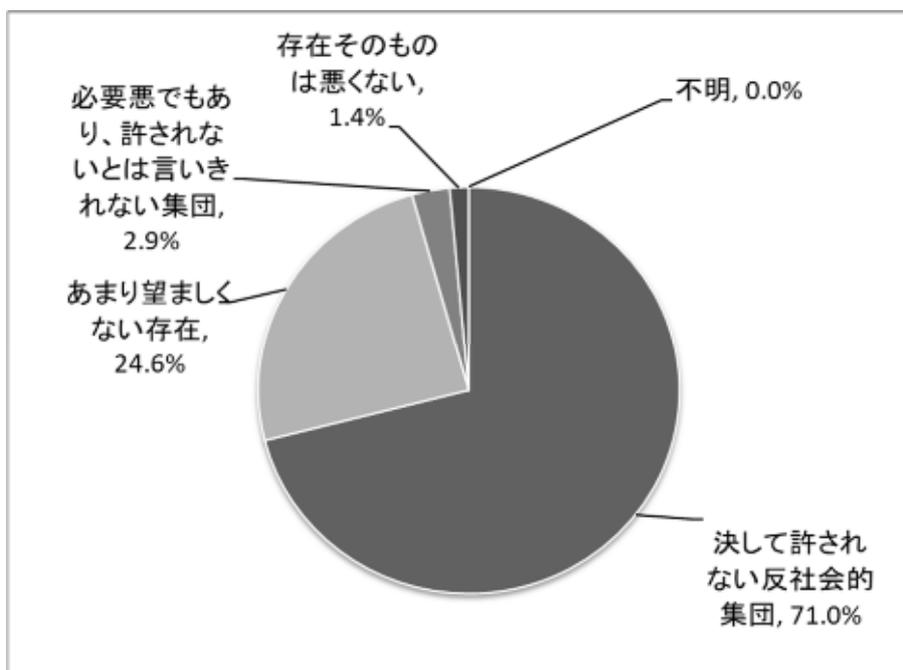


		回答者数	テレビ	新聞	インターネット(スマートフォンなど含む)	県や県警察の広報誌	市の広報誌	その他	無回答
全体		105人	86.7%	49.5%	53.3%	19.0%	37.1%	1.0%	0.0%
性別	男性	50人	82.0%	60.0%	50.0%	18.0%	36.0%	2.0%	0.0%
	女性	55人	90.9%	40.0%	56.4%	20.0%	38.2%	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	5人	100.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	14人	92.9%	14.3%	57.1%	7.1%	42.9%	0.0%	0.0%
	40歳代	21人	85.7%	38.1%	71.4%	19.0%	19.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	19人	78.9%	57.9%	52.6%	10.5%	42.1%	0.0%	0.0%
	60歳代	21人	76.2%	57.1%	42.9%	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%
	70歳以上	25人	96.0%	68.0%	48.0%	28.0%	48.0%	4.0%	0.0%
区別	門司区	14人	92.9%	42.9%	50.0%	21.4%	35.7%	0.0%	0.0%
	小倉北区	17人	88.2%	58.8%	52.9%	5.9%	35.3%	0.0%	0.0%
	小倉南区	19人	78.9%	42.1%	57.9%	21.1%	36.8%	0.0%	0.0%
	若松区	8人	87.5%	75.0%	37.5%	12.5%	37.5%	0.0%	0.0%
	八幡東区	7人	85.7%	71.4%	14.3%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%
	八幡西区	30人	90.0%	43.3%	56.7%	23.3%	36.7%	0.0%	0.0%
	戸畑区	10人	80.0%	40.0%	80.0%	30.0%	50.0%	10.0%	0.0%

暴力団排除に「興味がある層」の普段の情報の入手元は、「テレビ」が86.7%（前回86.0%）、「新聞」が49.5%（前回54.7%）、「市の広報誌」が37.1%（前回34.9%）、「インターネット」が53.3%（前回51.2%）とほぼ前回と同様であった一方で、「県や県警察の広報誌」が19.0%（前回24.4%）と減少している。

問9 現在、暴力団をどのような存在とお考えですか？

(次の中から1つ選択してください。)



		回答者数	絶対に許されない反社会的集団	あまり望ましくない存在	必要悪でもあり、許されないと言いきれない集団	存在そのものは悪くない
全体		138人	71.0%	24.6%	2.9%	1.4%
性別	男性	59人	74.6%	18.6%	5.1%	1.7%
	女性	79人	68.4%	29.1%	1.3%	1.3%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	46.2%	38.5%	7.7%	7.7%
	30歳代	20人	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	25人	56.0%	32.0%	8.0%	4.0%
	50歳代	23人	82.6%	13.0%	4.3%	0.0%
	60歳代	24人	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	75.8%	24.2%	0.0%	0.0%
区別	門司区	18人	72.2%	27.8%	0.0%	0.0%
	小倉北区	26人	73.1%	19.2%	0.0%	7.7%
	小倉南区	26人	69.2%	23.1%	7.7%	0.0%
	若松区	10人	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	60.0%	30.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	37人	70.3%	29.7%	0.0%	0.0%
	戸畑区	11人	72.7%	18.2%	9.1%	0.0%

暴力団に対する認識は、

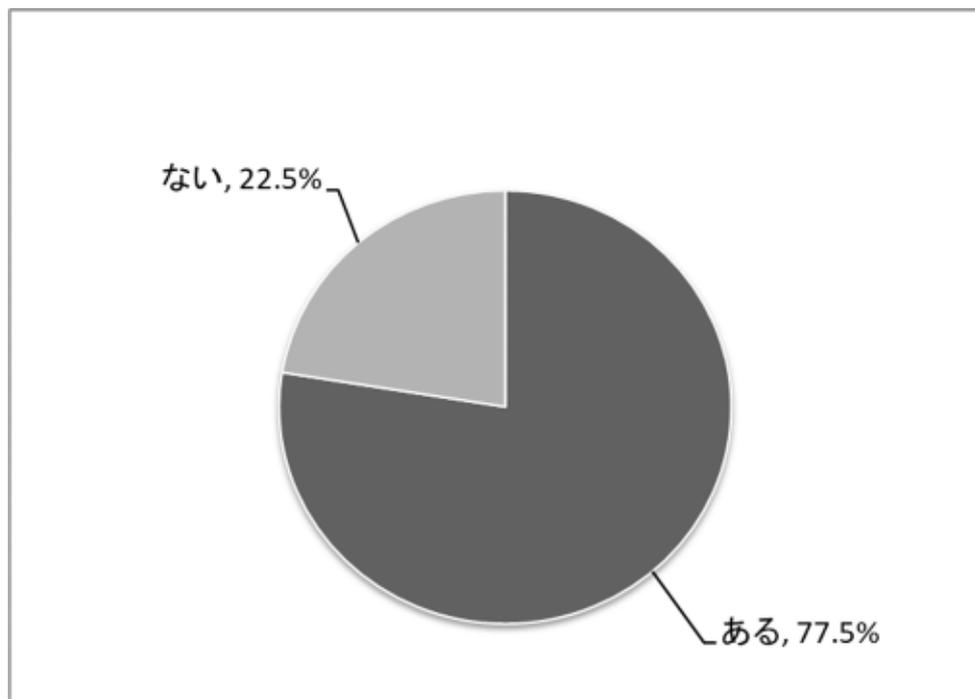
○ 絶対に許されない反社会的集団 71.0%

○ あまり望ましくない存在 24.6%

と95.6%の方が「否定的」である。

なお「必要悪でもあり許されないと言いきれない」は2.9%（前回6.7%）で、「存在そのものは悪くない」は1.4%（前回0.7%）であった。

問 10 「これまでのテレビ・新聞などの報道」の中で、暴力団（員）に対する脅威を感じたことがありますか？



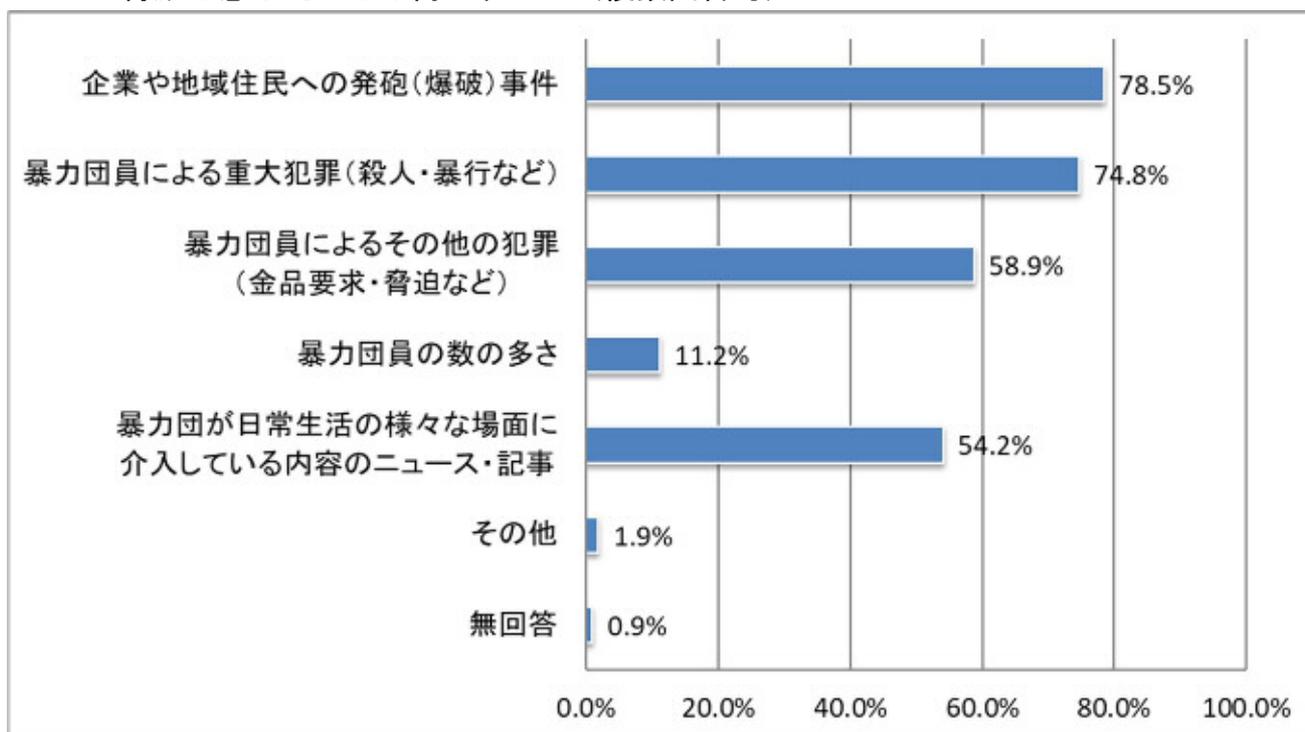
		回答者数	ある	ない	無回答
全体		138人	77.5%	22.5%	0.0%
性別	男性	59人	66.1%	33.9%	0.0%
	女性	79人	86.1%	13.9%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	69.2%	30.8%	0.0%
	30歳代	20人	70.0%	30.0%	0.0%
	40歳代	25人	80.0%	20.0%	0.0%
	50歳代	23人	87.0%	13.0%	0.0%
	60歳代	24人	70.8%	29.2%	0.0%
	70歳以上	33人	81.8%	18.2%	0.0%
区別	門司区	18人	66.7%	33.3%	0.0%
	小倉北区	26人	73.1%	26.9%	0.0%
	小倉南区	26人	84.6%	15.4%	0.0%
	若松区	10人	90.0%	10.0%	0.0%
	八幡東区	10人	90.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	37人	73.0%	27.0%	0.0%
	戸畑区	11人	81.8%	18.2%	0.0%

「報道」を通じた暴力団（員）に対する脅威は77.5%で、前回調査の80.6%より減少。

また、性別で見ると、男性66.1%に対し、女性86.1%と男性よりも女性が脅威を感じている結果となった。

問11 問10で「1 ある」と答えた方のみご回答ください。

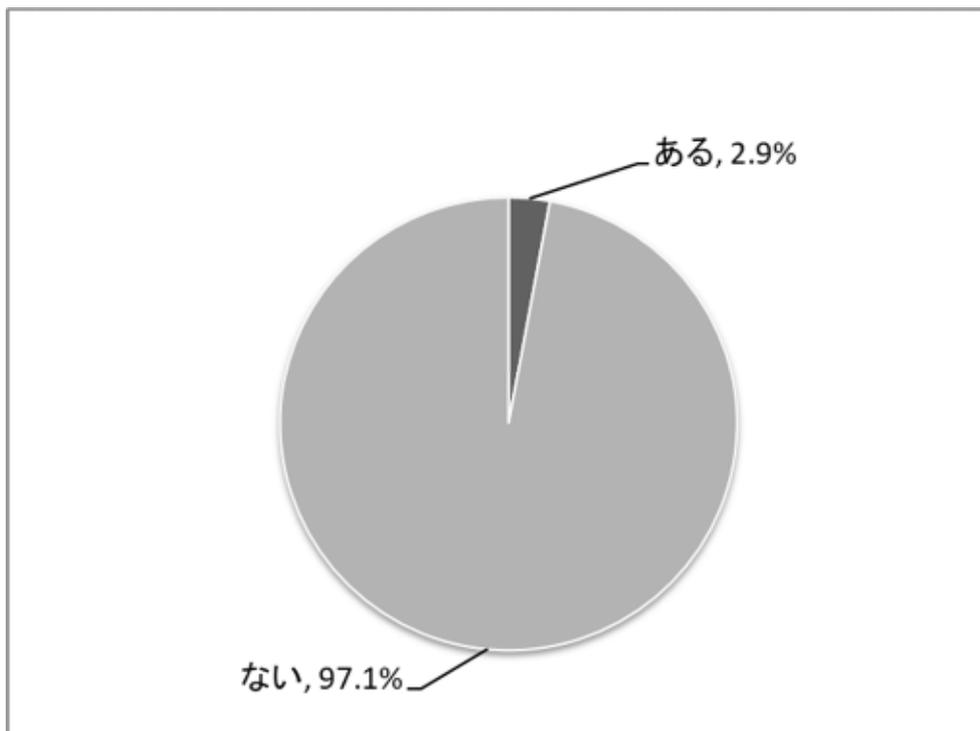
脅威と感じたことは何ですか？（複数回答可）



		回答者数	企業や地域住民への発砲(爆破)事件	暴力団員による重大犯罪(殺人・暴行など)	暴力団員によるその他の犯罪(金品要求・脅迫など)	暴力団員の数の多さ	暴力団が日常生活の様々な場面に介入している内容のニュース・記事	その他	無回答
全体		107人	78.5%	74.8%	58.9%	11.2%	54.2%	1.9%	0.9%
性別	男性	39人	82.1%	74.4%	56.4%	15.4%	51.3%	2.6%	0.0%
	女性	68人	76.5%	75.0%	60.3%	8.8%	55.9%	1.5%	1.5%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	9人	55.6%	66.7%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%
	30歳代	14人	92.9%	78.6%	57.1%	14.3%	57.1%	0.0%	0.0%
	40歳代	20人	75.0%	80.0%	45.0%	0.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	20人	90.0%	75.0%	65.0%	10.0%	75.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	17人	70.6%	82.4%	94.1%	5.9%	70.6%	0.0%	0.0%
	70歳以上	27人	77.8%	66.7%	59.3%	22.2%	59.3%	7.4%	0.0%
区別	門司区	12人	83.3%	100.0%	41.7%	16.7%	41.7%	0.0%	0.0%
	小倉北区	19人	84.2%	68.4%	52.6%	15.8%	68.4%	0.0%	5.3%
	小倉南区	22人	81.8%	68.2%	59.1%	13.6%	40.9%	4.5%	0.0%
	若松区	9人	66.7%	77.8%	44.4%	0.0%	44.4%	0.0%	0.0%
	八幡東区	9人	88.9%	77.8%	88.9%	0.0%	44.4%	0.0%	0.0%
	八幡西区	27人	70.4%	70.4%	66.7%	7.4%	59.3%	0.0%	0.0%
	戸畑区	9人	77.8%	77.8%	55.6%	22.2%	77.8%	11.1%	0.0%

報道の中で暴力団を脅威と感じた回答者について、その内容を見ると、78.5%が「企業や地域住民への発砲(爆破)事件」を選択している。次いで、「暴力団員による重大犯罪(殺人・暴行など)」が74.8%となっており、前回調査と同じ傾向になっている。

問 12 「最近5年間の実生活」の中で、暴力団（員）に対する脅威を感じた（もしくは暴力団員からの被害を受けた）ことがありますか？

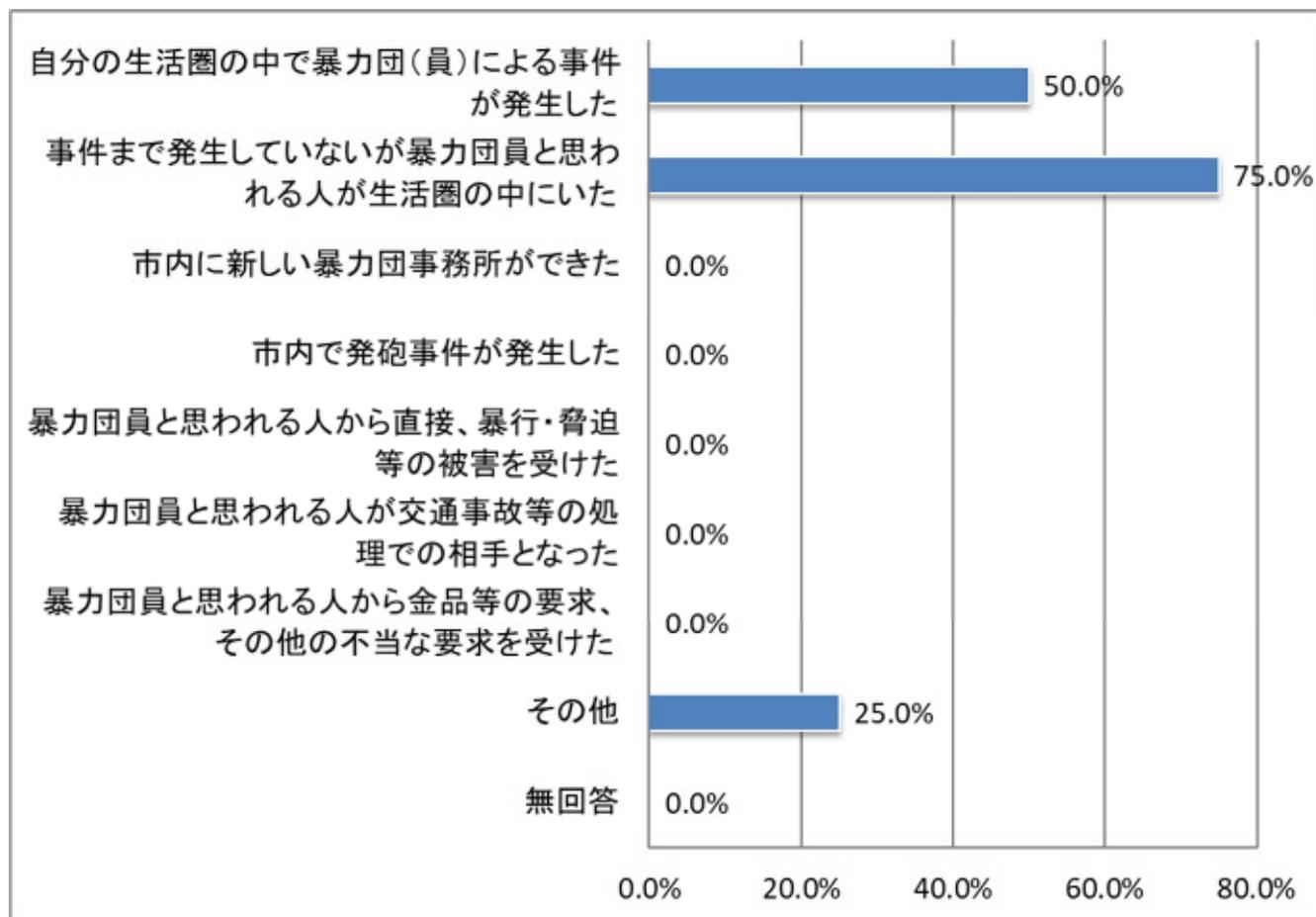


		回答者数	ある	ない	無回答
全体		138人	2.9%	97.1%	0.0%
性別	男性	59人	5.1%	94.9%	0.0%
	女性	79人	1.3%	98.7%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	0.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	20人	0.0%	100.0%	0.0%
	40歳代	25人	0.0%	100.0%	0.0%
	50歳代	23人	8.7%	91.3%	0.0%
	60歳代	24人	0.0%	100.0%	0.0%
	70歳以上	33人	6.1%	93.9%	0.0%
区別	門司区	18人	5.6%	94.4%	0.0%
	小倉北区	26人	0.0%	100.0%	0.0%
	小倉南区	26人	0.0%	100.0%	0.0%
	若松区	10人	0.0%	100.0%	0.0%
	八幡東区	10人	10.0%	90.0%	0.0%
	八幡西区	37人	2.7%	97.3%	0.0%
	戸畑区	11人	9.1%	90.9%	0.0%

「実生活」の中での暴力団に対する脅威は、「ない」が、97.1%（前回92.5%）、
「ある」が2.9%（前回7.5%）と前回調査と同じ傾向となった。

問 13 問 12 で「1」と答えた方のみご回答ください。

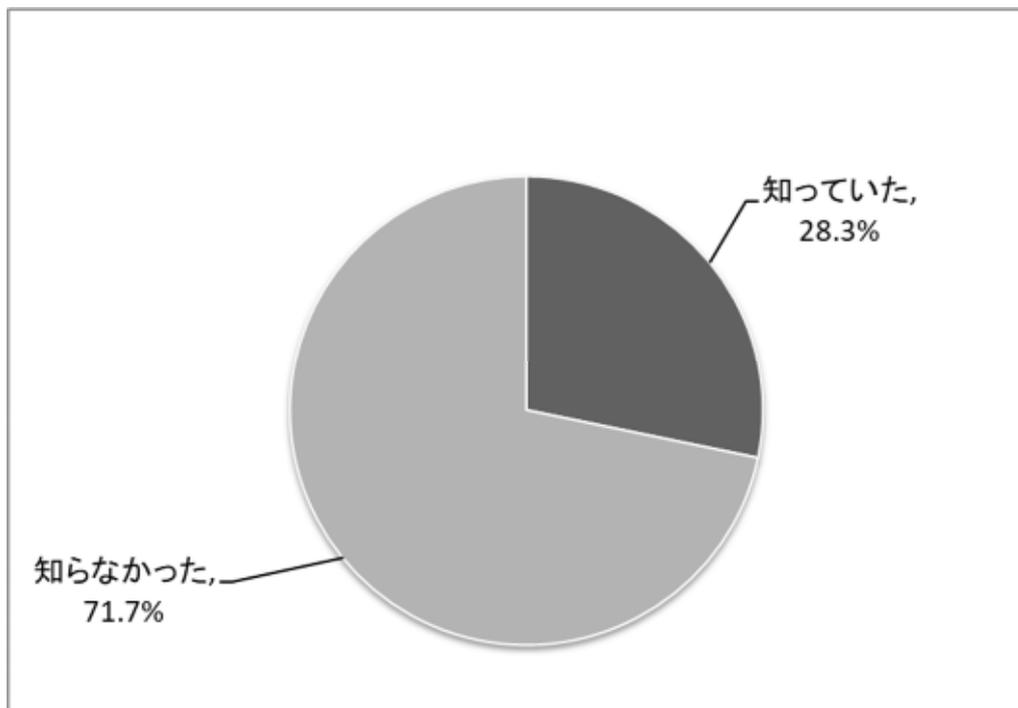
脅威と感じた（もしくは被害を受けた）ことは何ですか？（複数回答可）



		回答者数	自分の生活圏の中で暴力団（員）による事件が発生した	事件まで発生していないが暴力団員と思われる人が生活圏の中にいた	市内に新しい暴力団事務所ができた	市内で発砲事件が発生した	暴力団員と思われる人から直接、暴行・脅迫等の被害を受けた	暴力団員と思われる人が交通事故等の処理での相手となった	暴力団員と思われる人から金品等の要求、その他の不当な要求を受けた	その他	無回答
全体		4人	50.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
性別	男性	3人	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
	女性	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	2人	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	2人	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
区別	門司区	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	1人	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

実生活の中で暴力団を脅威と感じた回答者について、その内容（複数回答）を見ると、「事件まで発生していないが暴力団員と思われる人が生活圏の中にいた」が75.0%、「自分の生活圏の中で暴力団（員）による事件が発生した」が50.0%であった。

問 14 暴力団員等から被害を受けた場合や受けるおそれがある場合、○北九州市安全・安心相談センター○暴力追放ダイヤル○福岡県暴力追放運動推進センターなどの専門相談窓口があります。ご存じでしたか？

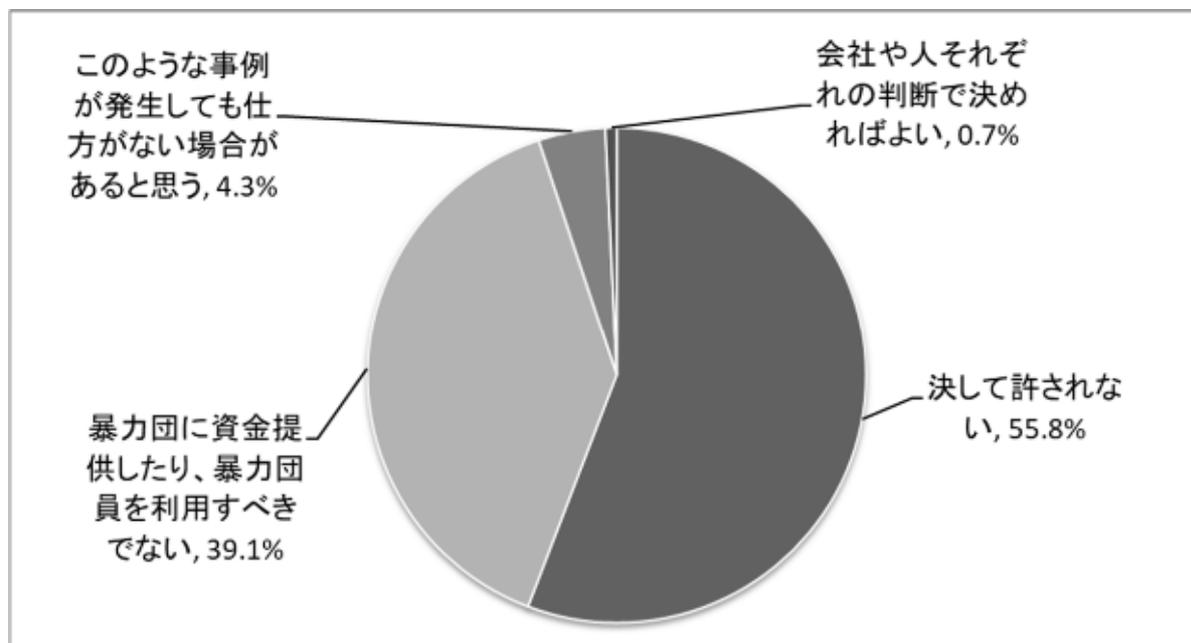


		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		138人	28.3%	71.7%	0.0%
性別	男性	59人	40.7%	59.3%	0.0%
	女性	79人	19.0%	81.0%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	38.5%	61.5%	0.0%
	30歳代	20人	5.0%	95.0%	0.0%
	40歳代	25人	20.0%	80.0%	0.0%
	50歳代	23人	26.1%	73.9%	0.0%
	60歳代	24人	45.8%	54.2%	0.0%
	70歳以上	33人	33.3%	66.7%	0.0%
区別	門司区	18人	50.0%	50.0%	0.0%
	小倉北区	26人	50.0%	50.0%	0.0%
	小倉南区	26人	7.7%	92.3%	0.0%
	若松区	10人	50.0%	50.0%	0.0%
	八幡東区	10人	20.0%	80.0%	0.0%
	八幡西区	37人	13.5%	86.5%	0.0%
	戸畑区	11人	27.3%	72.7%	0.0%

「北九州市 安全・安心相談センター」や「福岡県警察 暴力追放ダイヤル」等の認知度は、28.3%で、前回調査の26.1%より増加した。

問 15 会社や個人が、暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用して、もめごとの処理を行ったりするような行為について、どう考えますか？

(次の中から1つ選択してください。)

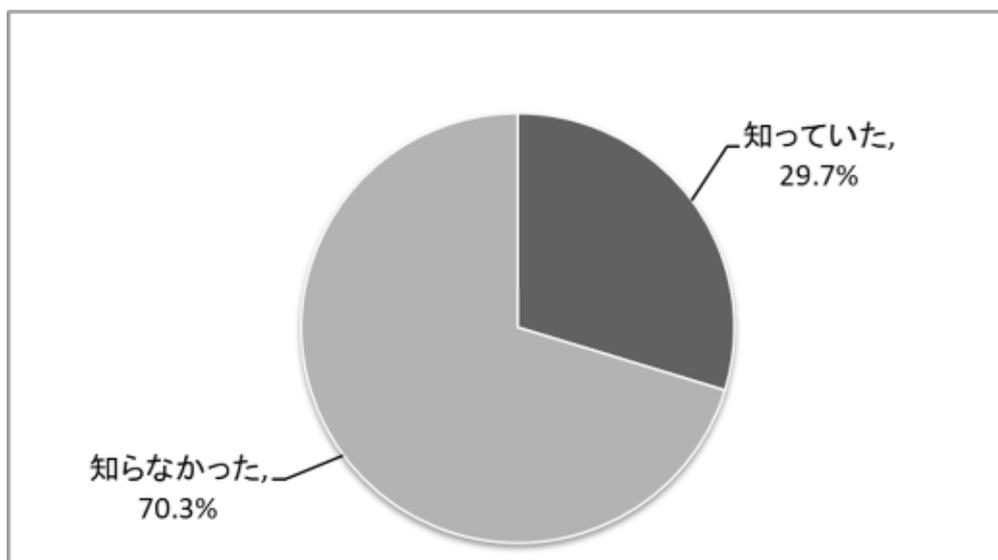


		回答者数	決して許されない	暴力団に資金提供したり、暴力団員を利用すべきでない	このような事例が発生しても仕方がない場合があると思う	会社や人それぞれの判断で決めればよい
全体		138人	55.8%	39.1%	4.3%	0.7%
性別	男性	59人	54.2%	39.0%	6.8%	0.0%
	女性	79人	57.0%	39.2%	2.5%	1.3%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	38.5%	53.8%	7.7%	0.0%
	30歳代	20人	80.0%	15.0%	0.0%	5.0%
	40歳代	25人	60.0%	28.0%	12.0%	0.0%
	50歳代	23人	43.5%	52.2%	4.3%	0.0%
	60歳代	24人	58.3%	37.5%	4.2%	0.0%
	70歳以上	33人	51.5%	48.5%	0.0%	0.0%
区別	門司区	18人	55.6%	38.9%	5.6%	0.0%
	小倉北区	26人	69.2%	23.1%	7.7%	0.0%
	小倉南区	26人	42.3%	42.3%	11.5%	3.8%
	若松区	10人	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	37人	54.1%	45.9%	0.0%	0.0%
	戸畑区	11人	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%

会社や個人で、暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用して、もめごとの処理を行うことに対しては、「決して許されない」「暴力団に資金提供したり、暴力団員を利用すべきでない」とする「否定層」が94.9%と、前回調査の93.3%と同様の傾向であった。

問 16 暴力団対策法には、次のような制度がありますがご存じでしたか？

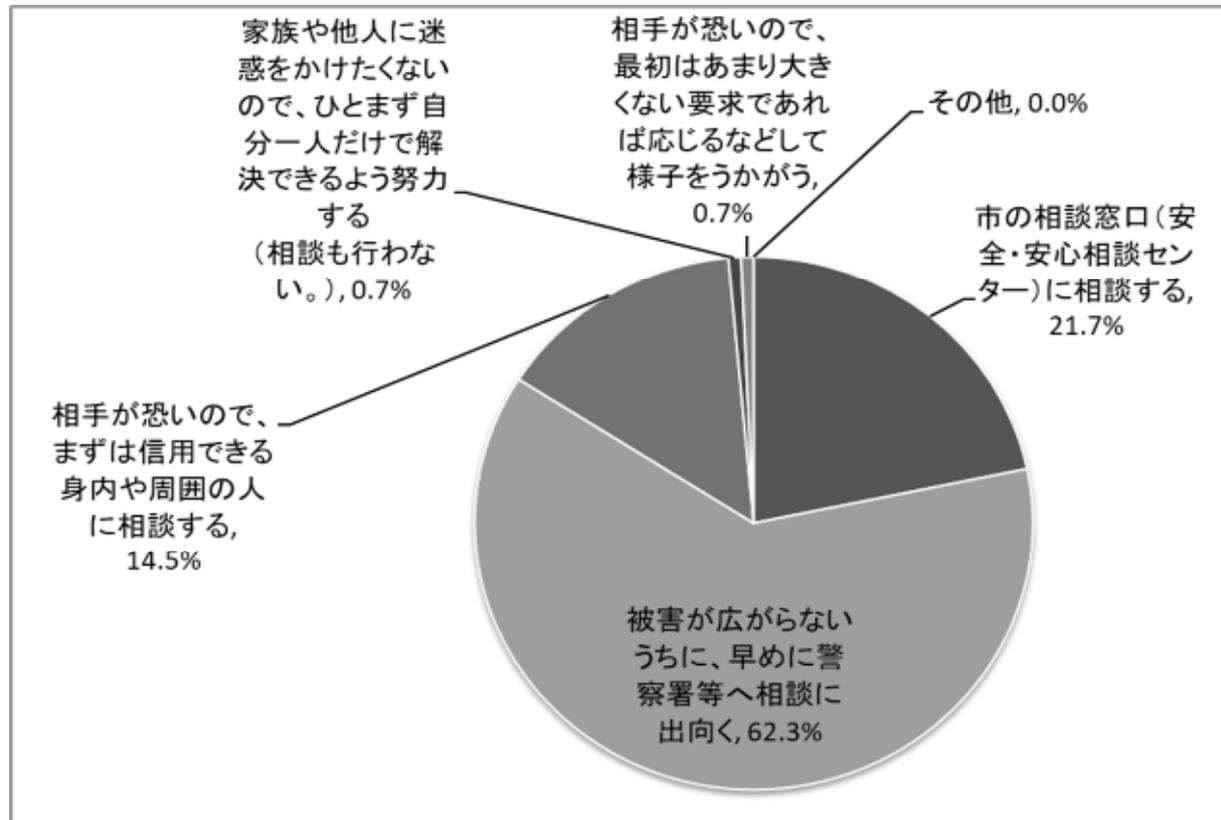
指定暴力団の構成員による「人の弱みにつけ込んで口止め料を要求する行為」など 27 の不当な行為が禁止され、繰り返し行われるおそれがある場合には、公安委員会または警察署から「中止命令」（従わない場合は逮捕等）を発出できることとなっています。



		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		138人	29.7%	70.3%	0.0%
性別	男性	59人	50.8%	49.2%	0.0%
	女性	79人	13.9%	86.1%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	7.7%	92.3%	0.0%
	30歳代	20人	10.0%	90.0%	0.0%
	40歳代	25人	36.0%	64.0%	0.0%
	50歳代	23人	26.1%	73.9%	0.0%
	60歳代	24人	29.2%	70.8%	0.0%
	70歳以上	33人	48.5%	51.5%	0.0%
区別	門司区	18人	27.8%	72.2%	0.0%
	小倉北区	26人	50.0%	50.0%	0.0%
	小倉南区	26人	26.9%	73.1%	0.0%
	若松区	10人	20.0%	80.0%	0.0%
	八幡東区	10人	0.0%	100.0%	0.0%
	八幡西区	37人	27.0%	73.0%	0.0%
	戸畑区	11人	36.4%	63.6%	0.0%

暴力団対策法（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律）に規定された「中止命令」についての認知度は29.7%と、前回調査の34.3%より減少した。

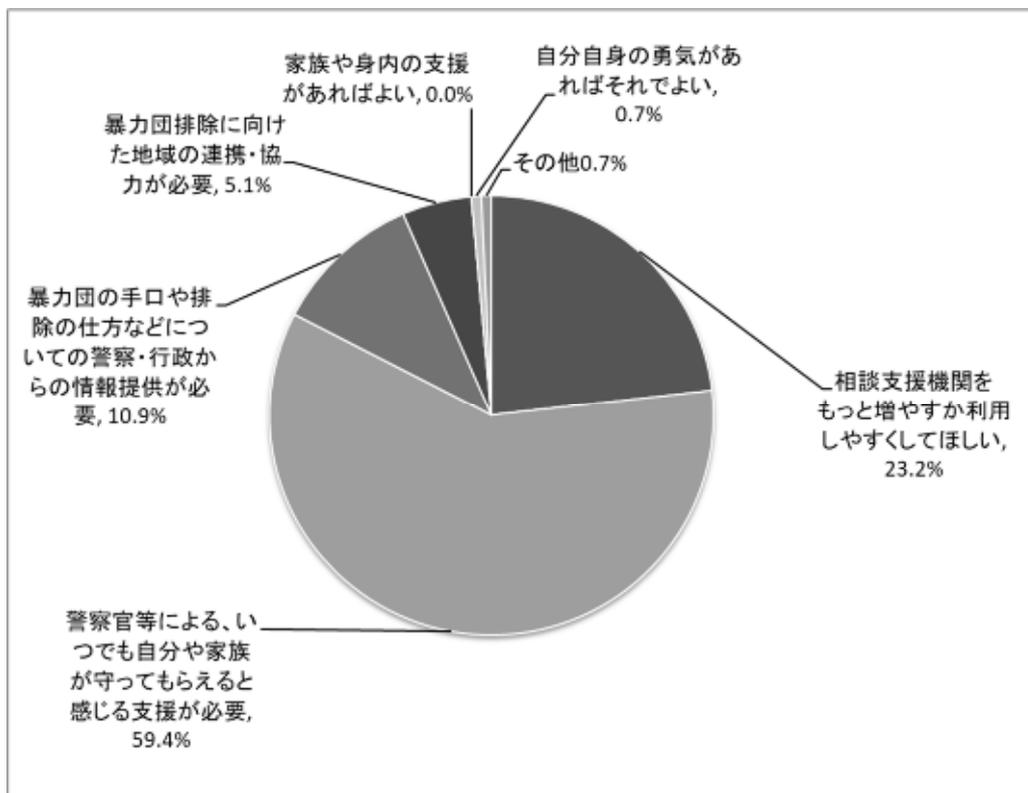
問 17 「問 16」のような制度が有効に機能するためには、暴力団員から被害を受けた、もしくは受けそうな方が勇気をもって警察署等へ相談することが必要となりますが、あなたがそのような事例に巻き込まれた場合、まずはどのように行動されますか？（次の中から1つ選択してください。）



		回答者数	市の相談窓口（安全・安心相談センター）に相談する	被害が広がらないうちに、早めに警察署等へ相談に出向く	相手が恐いので、まずは信用できる身内や周囲の人に相談する	家族や他人に迷惑をかけたくない	相手が恐いので、最初はあまり大きくない要求であれば応じるなどして様子をうかがう	その他	無回答
全体		138人	21.7%	62.3%	14.5%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%
性別	男性	59人	18.6%	69.5%	11.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性	79人	24.1%	57.0%	16.5%	1.3%	1.3%	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	15.4%	69.2%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	20人	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	25人	12.0%	72.0%	12.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	43.5%	47.8%	4.3%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	24人	29.2%	54.2%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	12.1%	75.8%	12.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	18人	11.1%	72.2%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	26人	30.8%	61.5%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	26人	15.4%	61.5%	15.4%	3.8%	3.8%	0.0%	0.0%
	若松区	10人	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	10.0%	80.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	37人	21.6%	54.1%	24.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	11人	27.3%	63.6%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

暴力団員から被害を受けた、もしくは受けそうな場合に、まずはとる行動として、「被害が広がらないうちに早めに警察署等へ相談に出向く」と「市の相談窓口（安全・安心相談センター）に相談する」が合わせて84.0%と、公的機関へ相談する回答が一番多い結果となった。

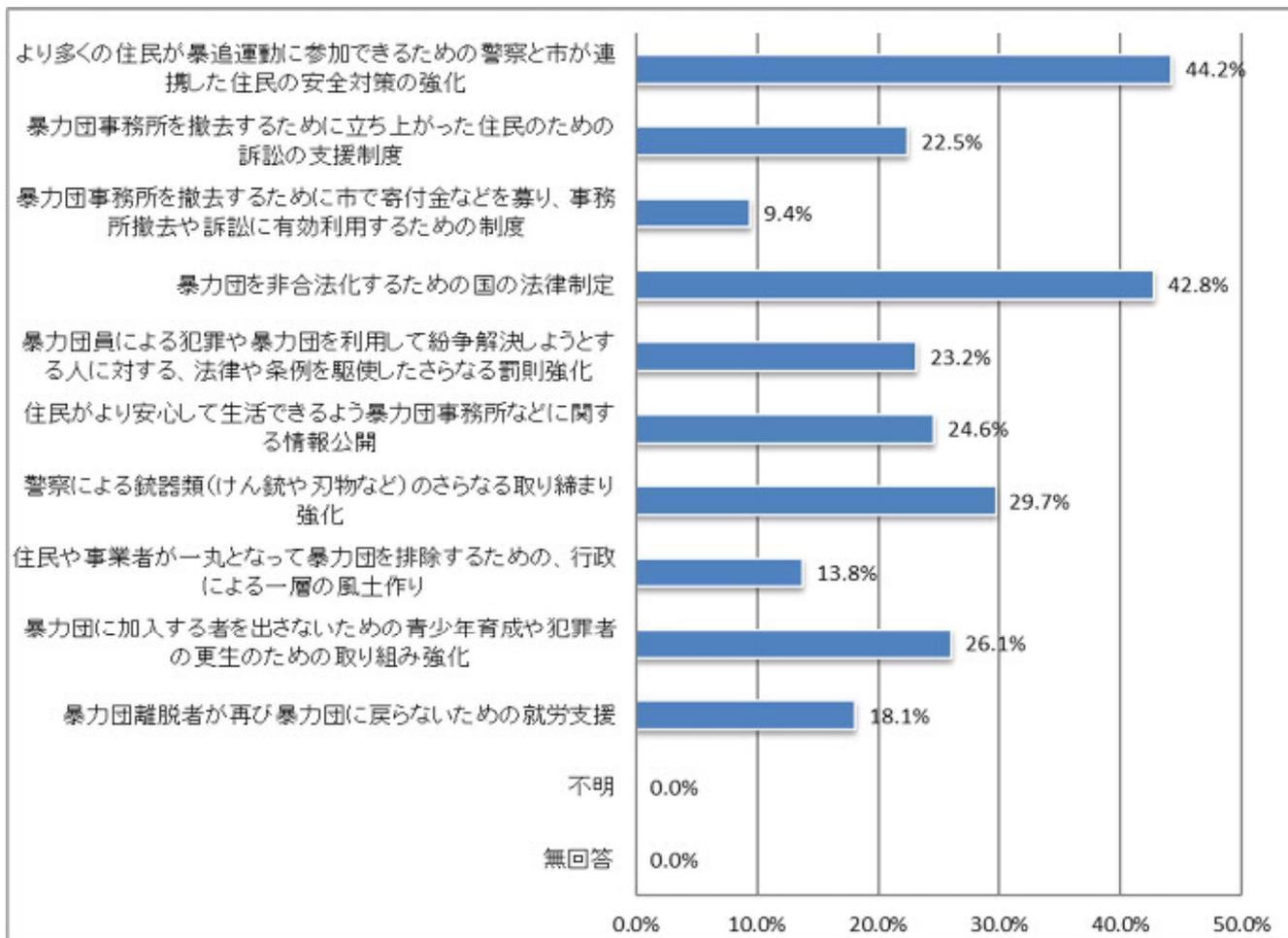
問 18 あなた自身が暴力団員等から不当な要求などを受けた場合に、勇気をもって排除することができる環境として、今以上に必要なものは何だとお考えですか？（一番必要だと思うものを1つ選択してください。）



	回答者数	相談支援機関をもっと増やすか利用しやすくしてほしい	警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援が必要	暴力団の手口や排除の仕方などについての警察・行政からの情報提供が必要	暴力団排除に向けた地域の連携・協力が必要	家族や身内の支援があればよい	自分自身の勇気があればそれでよい	その他	無回答	
全体	138人	23.2%	59.4%	10.9%	5.1%	0.0%	0.7%	0.7%	0.0%	
性別	男性	59人	20.3%	59.3%	8.5%	8.5%	0.0%	1.7%	1.7%	0.0%
	女性	79人	25.3%	59.5%	12.7%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	7.7%	69.2%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	20人	30.0%	60.0%	5.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	25人	28.0%	52.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	39.1%	56.5%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%
	60歳代	24人	16.7%	62.5%	16.7%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	15.2%	60.6%	6.1%	15.2%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%
区別	門司区	18人	16.7%	66.7%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	26人	26.9%	61.5%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%
	小倉南区	26人	19.2%	65.4%	11.5%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%
	若松区	10人	20.0%	60.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	40.0%	50.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	37人	24.3%	54.1%	13.5%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	11人	18.2%	54.5%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

自身が暴力団員等から不当な要求などを受けた場合に、勇気をもって排除することができる環境として今以上に必要なものは、「警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援」が半数以上の59.4%を占めた。次いで「相談支援機関をもっと増やすか利用しやすくしてほしい」との回答が23.2%であった。

問 19 暴力団排除に向けた行政の施策として、今後、特に必要と考えるものは次のうちどれですか？（特に必要だと思うものを3つまで選択してください。）

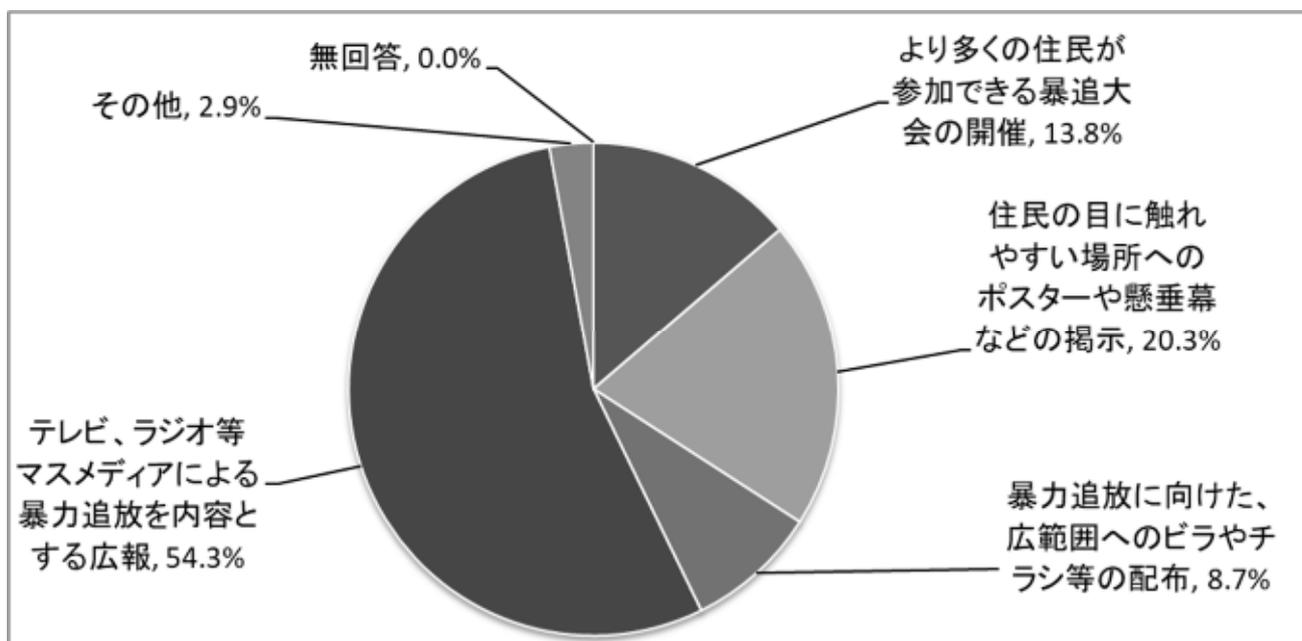


	回答者数	より多くの住民が暴追運動に参加できるための警察と市が連携した住民の安全対策の強化	暴力団事務所を撤去するために立ち上がった住民のための訴訟の支援制度	暴力団事務所を撤去するために市で寄付金などを募り、事務所撤去や訴訟に有効利用するための制度	暴力団を非合法化するための国の法律制定	暴力団員による犯罪や暴力団を利用して紛争解決しようとする人に対する、法律や条例を駆使したさらなる罰則強化	住民がより安心して生活できるよう暴力団事務所などに関する情報公開	警察による銃器類(けん銃や刃物など)のさらなる取り締まり強化	住民や事業者が一丸となって暴力団を排除するための、行政による一層の風土作り	暴力団に加入する者を出さないための青少年育成や犯罪者の更生のための取り組み強化	暴力団離脱者が再び暴力団に戻らないための就労支援	不明	無回答
全体	138人	44.2%	22.5%	9.4%	42.8%	23.2%	24.6%	29.7%	13.8%	26.1%	18.1%	0.0%	0.0%
性別	男性	59人	42.4%	16.9%	13.6%	49.2%	22.0%	16.9%	28.8%	20.3%	23.7%	22.0%	0.0%
	女性	79人	45.6%	26.6%	6.3%	38.0%	24.1%	30.4%	30.4%	8.9%	27.8%	15.2%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	38.5%	0.0%	7.7%	46.2%	46.2%	38.5%	23.1%	0.0%	23.1%	23.1%	0.0%
	30歳代	20人	60.0%	40.0%	10.0%	40.0%	20.0%	15.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	25人	36.0%	12.0%	12.0%	44.0%	20.0%	28.0%	40.0%	12.0%	28.0%	12.0%	0.0%
	50歳代	23人	47.8%	26.1%	13.0%	34.8%	26.1%	26.1%	34.8%	8.7%	21.7%	21.7%	0.0%
	60歳代	24人	54.2%	41.7%	8.3%	41.7%	20.8%	20.8%	33.3%	16.7%	29.2%	20.8%	0.0%
	70歳以上	33人	33.3%	12.1%	6.1%	48.5%	18.2%	24.2%	30.3%	30.3%	36.4%	27.3%	0.0%
区別	門司区	18人	44.4%	16.7%	11.1%	38.9%	33.3%	27.8%	50.0%	11.1%	22.2%	11.1%	0.0%
	小倉北区	26人	50.0%	19.2%	0.0%	38.5%	26.9%	15.4%	30.8%	26.9%	30.8%	19.2%	0.0%
	小倉南区	26人	42.3%	26.9%	15.4%	38.5%	3.8%	42.3%	26.9%	11.5%	19.2%	23.1%	0.0%
	若松区	10人	30.0%	30.0%	10.0%	60.0%	20.0%	20.0%	40.0%	10.0%	30.0%	30.0%	0.0%
	八幡東区	10人	30.0%	30.0%	10.0%	30.0%	10.0%	10.0%	50.0%	0.0%	50.0%	30.0%	0.0%
	八幡西区	37人	51.4%	18.9%	8.1%	48.6%	27.0%	18.9%	18.9%	13.5%	24.3%	13.5%	0.0%
	戸畑区	11人	36.4%	27.3%	18.2%	45.5%	45.5%	36.4%	9.1%	9.1%	18.2%	9.1%	0.0%

暴力団排除に向けた施策ニーズは、前回調査時、「国の法整備」が1位（今回42.8%、前回47.0%）であったが、今回調査では「より多くの住民が暴追運動に参加できるための警察と市が連携した住民の安全対策の強化」が44.2%（前回40.3%）で1位となった。

問 20 あなたを含めた市民の皆様が、今後、より暴力団排除意識を高揚させるためには、どのようなPR手法が有効とお考えですか？

(次の中から1つ選択してください。)

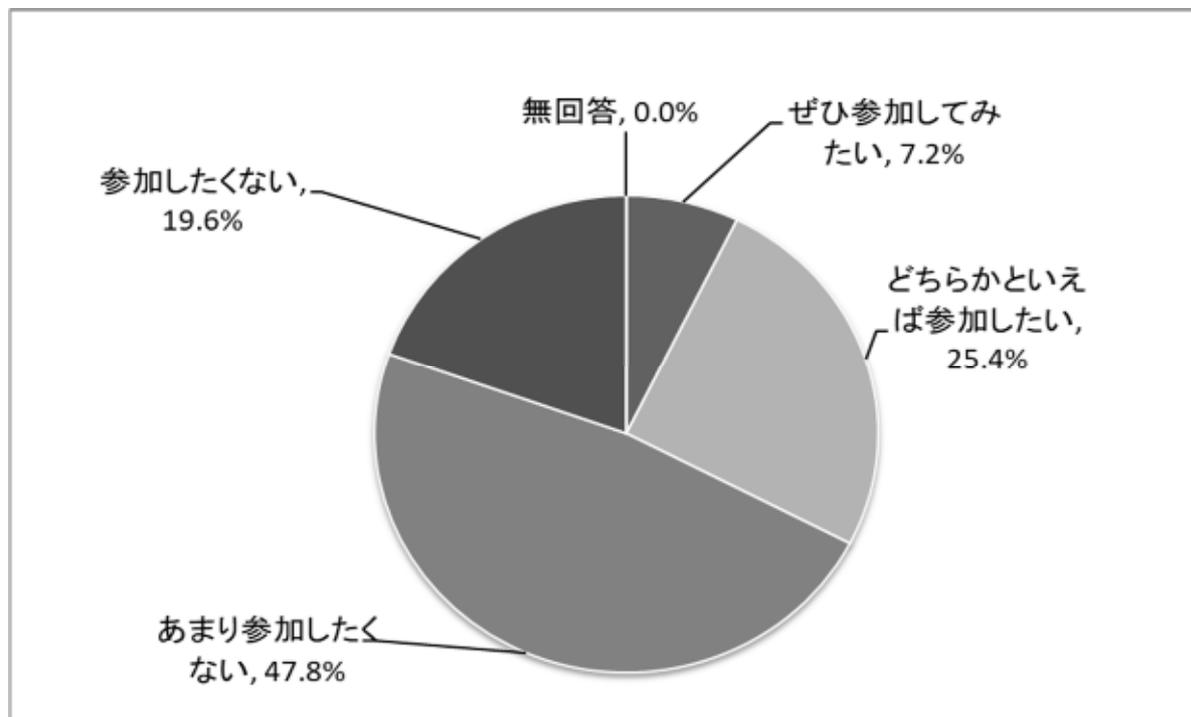


		回答者数	より多くの住民が参加できる暴追大会の開催	住民の目に触れやすい場所へのポスターや懸垂幕などの掲示	暴力追放に向けた、広範囲へのビラやチラシ等の配布	テレビ、ラジオ等マスメディアによる暴力追放を内容とする広報	その他	無回答
全体		138人	13.8%	20.3%	8.7%	54.3%	2.9%	0.0%
性別	男性	59人	22.0%	25.4%	6.8%	42.4%	3.4%	0.0%
	女性	79人	7.6%	16.5%	10.1%	63.3%	2.5%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	7.7%	7.7%	7.7%	61.5%	15.4%	0.0%
	30歳代	20人	10.0%	20.0%	10.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	25人	12.0%	20.0%	8.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	4.3%	34.8%	13.0%	43.5%	4.3%	0.0%
	60歳代	24人	16.7%	25.0%	4.2%	54.2%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	24.2%	12.1%	9.1%	51.5%	3.0%	0.0%
区別	門司区	18人	16.7%	27.8%	11.1%	38.9%	5.6%	0.0%
	小倉北区	26人	7.7%	15.4%	19.2%	50.0%	7.7%	0.0%
	小倉南区	26人	15.4%	23.1%	11.5%	50.0%	0.0%	0.0%
	若松区	10人	30.0%	20.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	10.0%	20.0%	20.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	37人	13.5%	18.9%	0.0%	67.6%	0.0%	0.0%
	戸畑区	11人	9.1%	18.2%	0.0%	63.6%	9.1%	0.0%

暴力団排除意識の高揚にあたっての有効なPR手法としては、半数以上の回答者が「マスメディアによる広報」が有効と考えている。

次いで「住民の目に触れやすい場所へのポスターや懸垂幕などの掲示」が20.3%、「より多くの住民が参加できる暴追大会の開催」が13.8%となっている。

問 21 現在、県警察や市などの主催により、市内各地で暴力追放大会や暴追パレードが開催されていますが、あなたは参加する時間があるとした場合に、このような活動に参加することについてどのようにお考えですか？

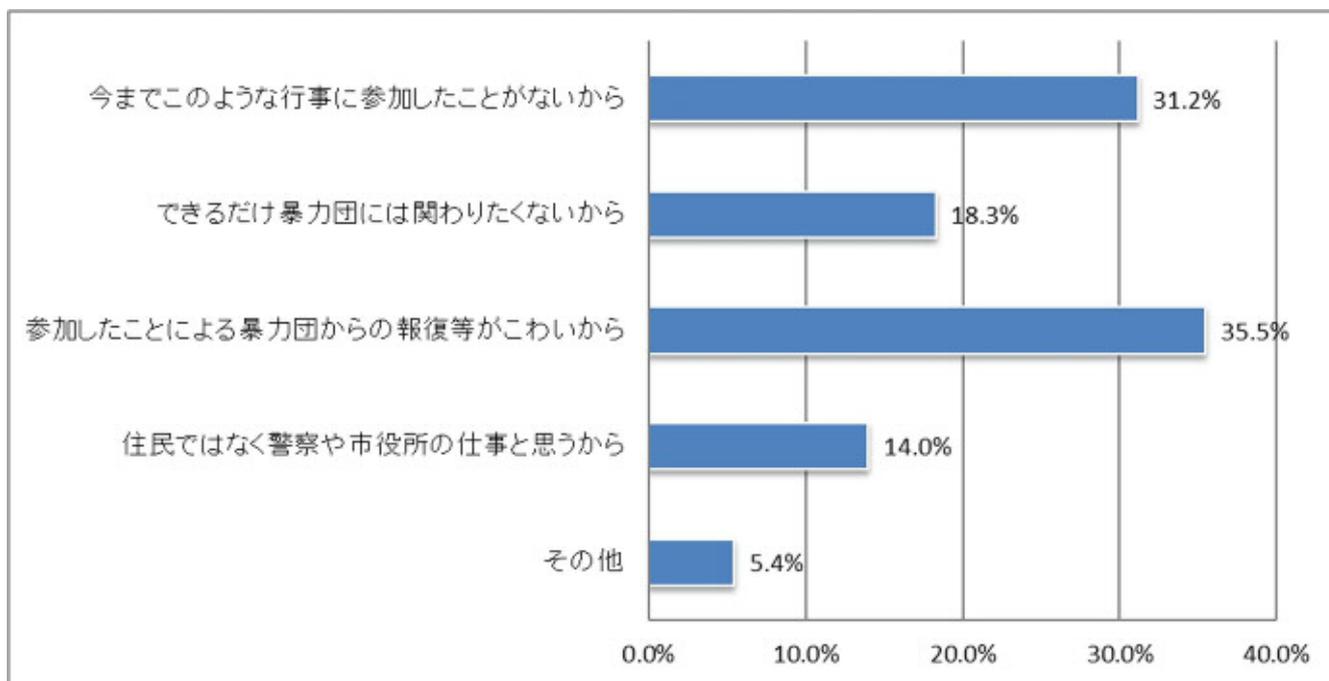


		回答者数	ぜひ参加してみたい	どちらかといえば参加したい	あまり参加したくない	参加したくない	無回答
全体		138人	7.2%	25.4%	47.8%	19.6%	0.0%
性別	男性	59人	8.5%	30.5%	44.1%	16.9%	0.0%
	女性	79人	6.3%	21.5%	50.6%	21.5%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	7.7%	7.7%	46.2%	38.5%	0.0%
	30歳代	20人	10.0%	20.0%	50.0%	20.0%	0.0%
	40歳代	25人	4.0%	24.0%	48.0%	24.0%	0.0%
	50歳代	23人	4.3%	26.1%	39.1%	30.4%	0.0%
	60歳代	24人	8.3%	25.0%	58.3%	8.3%	0.0%
	70歳以上	33人	9.1%	36.4%	45.5%	9.1%	0.0%
区別	門司区	18人	16.7%	16.7%	44.4%	22.2%	0.0%
	小倉北区	26人	11.5%	19.2%	42.3%	26.9%	0.0%
	小倉南区	26人	3.8%	26.9%	50.0%	19.2%	0.0%
	若松区	10人	0.0%	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%
	八幡東区	10人	0.0%	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%
	八幡西区	37人	5.4%	27.0%	56.8%	10.8%	0.0%
	戸畑区	11人	9.1%	36.4%	27.3%	27.3%	0.0%

暴追大会や暴追パレードに対する参加意向としては、

- 参加したい層 32.6% (前回調査 31.3%) であるのに対し、
- 参加したくない層 67.4% (前回調査 68.7%) であり、前回調査と同様の傾向となった。

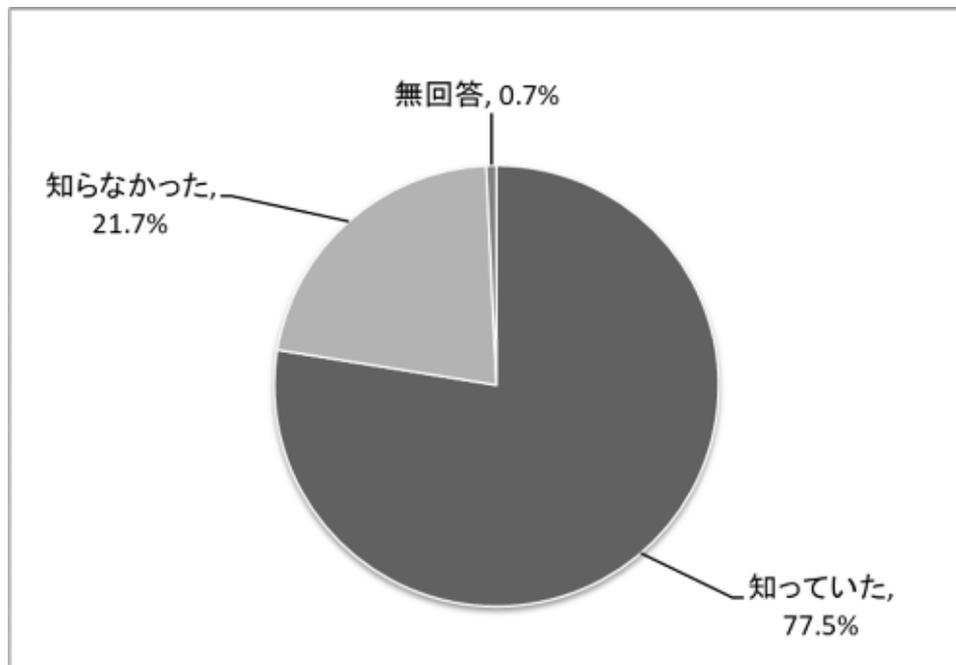
問 22 問 21 で「3 あまり参加したくない」「4 参加したくない」と答えた方のみご回答ください。その理由は何ですか？（複数回答可）



		回答者数	今までこのような行事に参加したことがないから	できるだけ暴力団には関わりたくないから	参加したことによる暴力団からの報復等がこわいから	住民ではなく警察や市役所の仕事と思うから	その他	無回答
全体		93人	31.2%	18.3%	35.5%	14.0%	5.4%	0.0%
性別	男性	36人	33.3%	19.4%	27.8%	25.0%	2.8%	0.0%
	女性	57人	29.8%	17.5%	40.4%	7.0%	7.0%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	11人	27.3%	27.3%	27.3%	9.1%	9.1%	0.0%
	30歳代	14人	35.7%	21.4%	21.4%	7.1%	14.3%	0.0%
	40歳代	18人	50.0%	5.6%	33.3%	5.6%	5.6%	0.0%
	50歳代	16人	31.3%	31.3%	18.8%	25.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	16人	37.5%	18.8%	43.8%	12.5%	0.0%	0.0%
	70歳以上	18人	5.6%	11.1%	61.1%	22.2%	5.6%	0.0%
区別	門司区	12人	16.7%	25.0%	33.3%	8.3%	16.7%	0.0%
	小倉北区	18人	38.9%	11.1%	33.3%	22.2%	11.1%	0.0%
	小倉南区	18人	33.3%	16.7%	33.3%	22.2%	0.0%	0.0%
	若松区	8人	25.0%	12.5%	37.5%	12.5%	12.5%	0.0%
	八幡東区	6人	33.3%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	25人	28.0%	24.0%	36.0%	12.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	6人	50.0%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

暴追大会や暴追パレードに「参加したくない層」の理由としては、「参加したことによる暴力団からの報復等がこわいから」が35.5%となっており、次いで「今までこのような行事に参加したことがないから」が31.2%、「できるだけ暴力団には関わりたくないから」が18.3%となった。

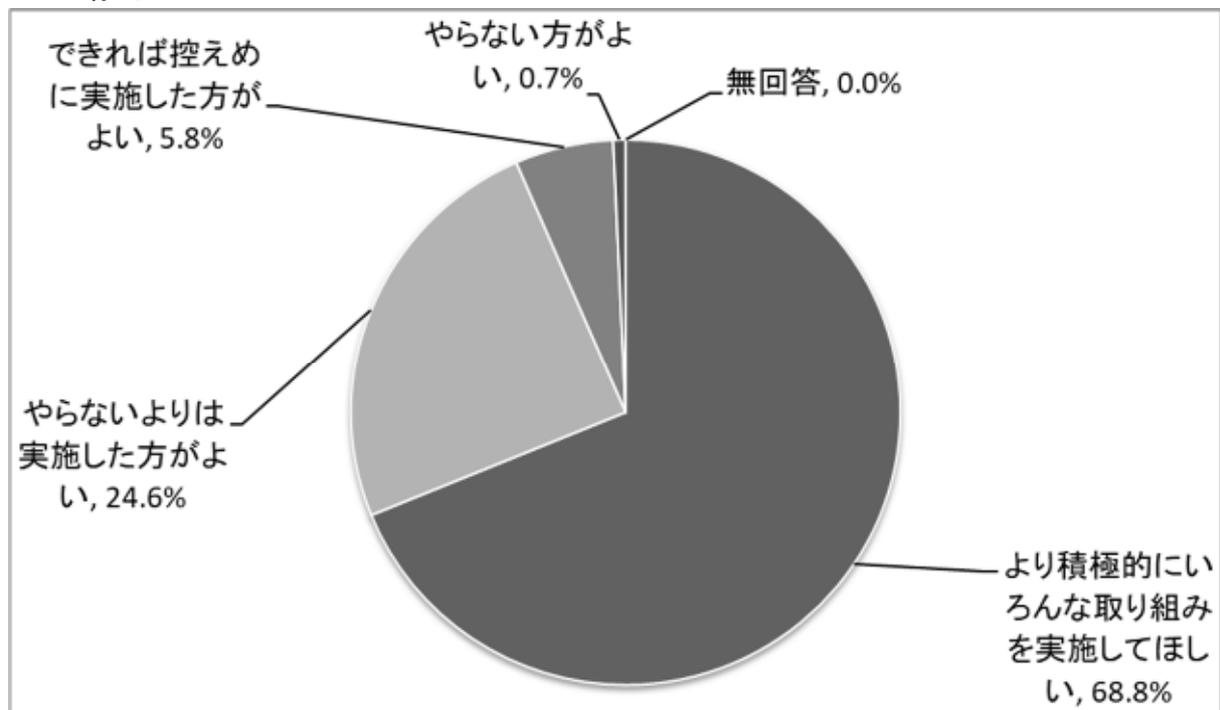
問 23 青少年の非行問題として、暴走族への加入、大麻や危険ドラッグ等薬物乱用、出会い系サイトによる少女売春などが社会問題化していますが、これらのいずれも、暴力団加入の予備軍になっていたり、暴力団の資金源となっている実態があることをご存知でしたか？



		回答者数	知っていた	知らなかった	無回答
全体		138人	77.5%	21.7%	0.7%
性別	男性	59人	86.4%	11.9%	1.7%
	女性	79人	70.9%	29.1%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	69.2%	30.8%	0.0%
	30歳代	20人	60.0%	40.0%	0.0%
	40歳代	25人	92.0%	8.0%	0.0%
	50歳代	23人	69.6%	30.4%	0.0%
	60歳代	24人	91.7%	8.3%	0.0%
	70歳以上	33人	75.8%	21.2%	3.0%
区別	門司区	18人	94.4%	5.6%	0.0%
	小倉北区	26人	88.5%	11.5%	0.0%
	小倉南区	26人	61.5%	38.5%	0.0%
	若松区	10人	70.0%	20.0%	10.0%
	八幡東区	10人	70.0%	30.0%	0.0%
	八幡西区	37人	75.7%	24.3%	0.0%
	戸畑区	11人	81.8%	18.2%	0.0%

青少年の非行問題が、暴力団への加入に繋がったり、暴力団の資金源となっていることに対する認知度は、77.5%（前回73.9%）と高く、前回調査と同様の認知度であった。

問 24 現在、県警察では県内の中学・高校で暴力団排除講演を実施するなどの取り組みを実施しています。これらの取り組みについて、どのようにお考えですか？

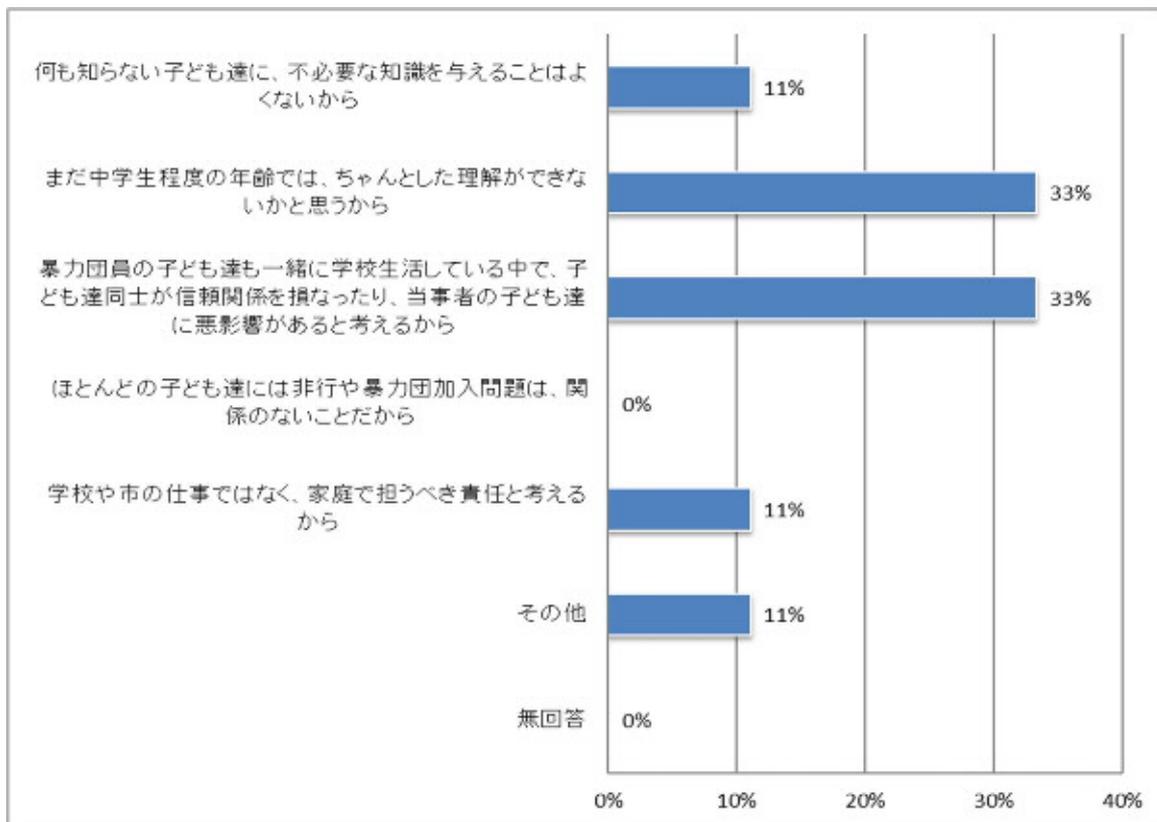


		回答者数	より積極的にいろんな取り組みを実施してほしい	やらないよりは実施した方がよい	できれば控えめに実施した方がよい	やらない方がよい	無回答
全体		138人	68.8%	24.6%	5.8%	0.7%	0.0%
性別	男性	59人	69.5%	22.0%	6.8%	1.7%	0.0%
	女性	79人	68.4%	26.6%	5.1%	0.0%	0.0%
年齢別	10歳代	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20歳代	13人	46.2%	46.2%	7.7%	0.0%	0.0%
	30歳代	20人	75.0%	15.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	25人	68.0%	28.0%	4.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	23人	69.6%	17.4%	8.7%	4.3%	0.0%
	60歳代	24人	79.2%	16.7%	4.2%	0.0%	0.0%
	70歳以上	33人	66.7%	30.3%	3.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	18人	77.8%	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%
	小倉北区	26人	76.9%	19.2%	3.8%	0.0%	0.0%
	小倉南区	26人	50.0%	34.6%	15.4%	0.0%	0.0%
	若松区	10人	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	37人	67.6%	27.0%	2.7%	2.7%	0.0%
	戸畑区	11人	72.7%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%

県警察が実施している県内の中学・高校で実施している暴力団排除講演などの取り組みに対する回答者の意向としては、肯定的な見方（より積極的に実施してほしい＋やらないよりは実施した方がよい）が93.4%（前回98.5%）と大半を占めており、否定的な見方（できれば控えめに実施した方がよい＋やらない方がよい）は6.5%（前回1.4%）であった。

問 25 問 24 で「3 できれば控えめに実施した方がよい」「4 やらない方がよい」と答えた方のみご回答ください。

その理由は何ですか？（主なものを1つ選択してください。）



	回答者数	何も知らない子ども達に、不必要な知識を与えることはよくないから	まだ中学生程度の年齢では、ちゃんとした理解ができないかと思うから	暴力団員の子ども達も一緒に学校生活している中で、子ども達同士が信頼関係を損なったり、当事者の子ども達に悪影響があると考えるから	ほとんどの子ども達には非行や暴力団加入問題は、関係のないことだから	学校や市の仕事ではなく、家庭で担うべき責任と考えるから	その他	無回答
全体	9人	11%	33%	33%	0%	11%	11%	0%
性別	男性	5人	20%	40%	0%	0%	20%	0%
	女性	4人	0%	50%	25%	0%	25%	0%
年齢別	10歳代	0人	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	20歳代	1人	0%	100%	0%	0%	0%	0%
	30歳代	2人	50%	0%	50%	0%	0%	0%
	40歳代	1人	0%	0%	0%	0%	100%	0%
	50歳代	3人	0%	33%	33%	0%	0%	33%
	60歳代	1人	0%	0%	100%	0%	0%	0%
	70歳以上	1人	0%	100%	0%	0%	0%	0%
区別	門司区	1人	0%	100%	0%	0%	0%	0%
	小倉北区	1人	0%	100%	0%	0%	0%	0%
	小倉南区	4人	25%	25%	25%	0%	25%	0%
	若松区	0人	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	八幡東区	0人	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	八幡西区	2人	0%	0%	50%	0%	0%	50%
	戸畑区	1人	0%	0%	100%	0%	0%	0%

県警察が実施している県内の中学・高校で実施している暴力団排除講演などの取り組みに対して「まだ中学生程度の年齢では、ちゃんとした理解ができないかと思うから」、「暴力団員の子ども達も一緒に学校生活している中で、子ども達同士が信頼関係を損なったり、当事者の子ども達に悪影響があると考えるから」が各33%であった。

問 26 その他

暴力団対策をはじめとする暴力追放推進施策に関するご意見のある方は、ご自由に記入下さい。

4 2 件のご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

- ・ 暴力団がいなくなった場合は素敵な日常が来るのでいいと思います
- ・ 市民が協力出来るように、市民に広く知らせて協力してもらうようにする。
- ・ 警察の人員を大幅に増やし、専従班を拡大する。交番を増やす。防犯カメラを増やす。
- ・ ここ 5 ～ 6 年、暴力団の影響を余り、聞かなくなり、警察、行政の皆様の暴力団対策が評価されていると思います。北九州の暴力団のイメージが更に薄くなる様、市民・警察・行政が三位一体となって取り組む風土を醸成する事が最も必要と思います。結論、日常生活で暴力団の威圧はほとんど感じていません。警察の対策に感謝しています。あと一歩です。
- ・ 北九州から暴力団のいない明るい町になって欲しい。自分に何が出来るか考えてできる事から実行していきたい。
- ・ 新聞をとっている人は減っているので暴力団がかかわった犯罪はテレビで今後もどんどん流して私たちに知らせてほしい。
- ・ いわゆる半グレと呼ばれる層がやっかい。ある意味暴力団よりもたちが悪い。実際には、この被害が多いのではないか？
- ・ 市長、関係者の皆様に本当に感謝しています。40年前和歌山県に旅行に行った時に「どちらからですか」「北九州です」と応じた時に「北九州の小倉は特に怖いところだそうですね」と言われました。今は安心して生活できています。これで立ち止まることなく住み易い街になるよう微力ですが応援していきたいと思っています。
- ・ 暴力団追放は賛成だが報復が怖い。

- ・ 幼い頃からの教育が重要と考えるため、小学生にも簡単な内容から暴力団排除について教えるべきだと思う。
- ・ 20年程前、小倉北区平和通りに黒崎から通勤していました。発砲事件があったり、組事務所が街中に堂々と存在していた時代に比べると、現在確実に改善していると感じます。必要悪を許さない、暴力を許さない地道な努力と活動がこれからも必要だと思います。警察の暴力団取り締まり心強い限りです。
- ・ 北九州市といえば、暴力団や派手な成人式と言われるほど暴力団に関する事件が多いことは全国的に知られています。そのような中で、工藤會トップの死刑判決や撲滅運動は勇気あることだと思います。暴力団は悪いことですが、怖いイメージもあります。一般市民が勇気をもって撲滅運動に参加でき、暴力団からの不当な要求に屈しないよう、警察や行政自体が率先して追放推進することが必要だと思います。
- ・ 暴力団を元から断つため、中学・高校からの青少年育成活動をさらに充実させてほしい。
- ・ 暴力団対策等の情報をもっと提供してほしい。
- ・ 随分昔だが職場の同僚などから、暴力団と、たまたま関わったために、精神的な病気になった若者の話を聞いたりした。少し前自宅近くの建物が暴力団関係の人が入っていたと、ニュースで知ったこともあり、自分とは全然関係ないことではないのだと思った。暴力団の為に不幸になる人が居ない世の中になってほしい。
- ・ 暴力団が関わった事件などを詳細にテレビで放送する。市内向けに最低毎月一度。県下全域が良いが。
- ・ 暴力団等に関する情報の発信量を増やし、市民の関心が強く持てるように啓蒙活動することが重要です。
- ・ 警察の仕事をテレビやネットでモニターして自分レベルでもできる範囲のことはやる。
- ・ これからも暴力団追放に向けて対策をお願いします。

- ・ 難しい問題だと思いますが、北九州市の施策がよい方向に向かっていると感じています。いろいろな場面(自治会等)での情報提供や話題にする機会を意識していないといけないと思いました。一般市民にとって、直接の被害がなければ、どこか他人事になっているのが現状ではないでしょうか。
- ・ 色々な講演会で単に講師が話すだけではなく、参加者がお互いの意見を話し合えるような時間を取り、問題について一緒に考えることができるような会にしたいと思っています。やり方は、ファシリテーション、ワールドカフェなどに詳しい方の意見を聞いて取り入れていただければと思います。それと、暴力団追放運動に参加して、暴力団の被害にあった人たちを市民はニュースなどで知っているのに、警察による保護が万全となるようにする必要があります。
- ・ 若い時から、暴力団の実態をきちんと伝え、関わることを無ないように指導するのが、大事だと思うから。
- ・ いろいろな条例が制定されていても、中身までは知らない。まして、県外から来た者は分からないことが多いです。広報誌などで目にしたり、イベントしたり、内容の周知徹底が必要かと思います。周りの方からは、だいぶ安全になったと聞き、福岡県の努力が感じられます。北九州市に住むからには具体的な内容を知っておきたいと思いました。
- ・ 子供の頃からの教育の必要性を感じる。小学校高学年・中・高とそれぞれの段階に合わせてカリキュラムを組む。
- ・ 小さな出来事と捉えないで 勇気を持って 必ず警察に相談すること。
- ・ 県警の取り組みが少しずつですが実を結びつつあるのを実感しています。特に頂上作戦でトップを逮捕したことは大変良いと思います。
- ・ 昔ほど、暴力団の力もなくなってきて、北九州のイメージも良くなったように思っています。工藤會排除の関係者の方々は、本当に頑張ったと思います。住みよい北九州を目指していければいいと願ってます。

IV 全体考察

本市では、市民の皆様が安全に安心して暮らせる社会の確保と、社会経済活動の健全な発展に寄与することを目的として、平成22年7月に「北九州市暴力団排除条例」を施行し、県警察、市、市民や事業者の皆様が一丸となった暴力団排除を推進している。

今回、今後の暴力追放に向けた施策を効果的に推進するため、暴力団排除条例に関する認知度や暴力団排除に向けた市民ニーズの把握に関する設問などを中心に、アンケート調査を実施した。

【暴力団排除条例の認知度について】

- 福岡県暴力団排除条例（平成22年4月施行）の認知度が67.4%、北九州市暴力団排除条例（平成22年7月施行）の認知度は59.4%であり、前回調査同様にいずれも半数を上回っている。

- 福岡県暴力団排除条例では「特定の地域における標章掲示店舗への暴力団の立入禁止」「暴力団員等に対する利益の供与及び暴力団員等が利益の供与を受けることの禁止等」に関する認知度が高く、北九州市暴力団排除条例では、「暴力団員に対する利益供与の禁止」に関する認知度が高くなっている。一方で、「条例の名前しか知らない」との回答が、県条例では22.6%、市条例でも32.9%と条例の中身まで知らない者も多数見受けられた。年齢層別では、県条例・市条例ともに70歳以上の認知度が最も高くなっていた。

【暴力団排除についての関心度と暴排意識】

- 暴力団排除についての日頃の関心度は76.1%と、前回調査の64.2%から増加し、暴力団の存在そのものに対する否定的な見方は95.6%と、こちらも前回調査の92.6%から増加した。また、会社や個人で暴力団に資金を提供したり、暴力団員を利用してめごとの処理を行うことに対しての否定的な見方は94.9%と、暴排意識については前回と同様高い結果となった。

- 暴力団に関する情報を普段どういったメディアから入手しているかについては、テレビや新聞が前回とほぼ同様であった一方、県や県警察の広報誌が19.0%と前回の24.4%から減少した。

【暴力団排除施策に対する認知度】

- 市の安全・安心相談センターや県警察の暴力追放ダイヤル等の認知度は、28.3%と前回調査の26.1%から増加した。

【暴力団排除施策に対するニーズ】

- 暴力団員等から不当要求などを受けた場合に、勇気をもって排除できる環境として、今以上に必要なものとしては、「警察官等による、いつでも自分や家族が守ってもらえると感じる支援」（直接的な保護対策の支援）が、59.4%と前回調査と同様に高くなっており、次いで「相談支援機関をもっと増やすか利用しやすくしてほしい」23.2%となった。
- 暴力団排除に向けた行政の施策として、今後特に必要と考えるものは、「暴力団を非合法化するための国の法整備」が前回調査時1位であったが、今回調査では、「より多くの住民が暴追運動に参加できるための警察と市が連携した住民の安全対策の強化」が1位となった。
- 今後、市民がより暴力団排除意識を高揚させるために必要なPR手法としては、「テレビ・ラジオ等マスメディアによる暴追を内容とする広報」が54.3%と高く、「住民の目に触れやすい場所へのポスター・懸垂幕の掲示」（20.3%）や「暴力追放に向けた、広範囲へのビラやチラシ等の配布」（8.7%）「より多くの住民が参加できる暴追大会の開催」（13.8%）といったニーズが前回調査同様に一定数あった。
- 県警察や市主催による暴追大会や暴追パレードへの参加意向としては、「参加したくない層」が67.4%と前回調査と同様の傾向であった。参加したくない理由として、「参加したことによる暴力団からの報復等がこわいから」が35.5%となっており、次いで「今までこのような行事に参加したことがないから」31.2%となった。

【青少年を暴力団から守るための取り組みについての意識】

- 青少年の非行問題として、暴走族への加入、大麻や危険ドラッグ等薬物乱用、出会い系サイトによる少女売春などが、いずれも暴力団加入の予備軍になっていたり、暴力団の資金源になっていたりする実態があることについての認知度は、77.5%と前回調査の73.9%と同様に高かった。また現在、県内の中学・高校で実施中の県警察による生徒への暴排教育については、93.4%と前回調査の98.5%と同様に回答者の多くが肯定的な見方である。

【まとめ】

- 暴力団排除条例について、県条例、市条例ともに6割程度が認知しており前回と同様の結果であり、暴力団排除に関する関心度については前回からさらに増加した。暴力団に関する情報の入手先としては、テレビや新聞といったマスメディア等だけでなく、インターネットも前回同様高い割合を示しており、今後の暴力団排除活動においては、多様な情報発信による啓発に努めていく必要がある。
- 「最近5年間の実生活」の中で、暴力団に対する脅威を感じたことが「ない」の回答割合が、前回調査から改善し、97.1%（前回92.5%）となり、県警察の諸対策を始め、市民、企業、行政の官民一体となった暴追運動に対する取組が体感治安の向上に繋がっていると推察される。
- 回答者全体の暴力団排除意識は非常に高い結果となった。一方で、暴追大会や暴追パレードなどへの直接の参加意向は、「参加したい層」が32.6%（前回31.3%）と、前回と同様の結果にとどまっており、意識の高揚のための取り組みが必要である。
- 暴力団排除に向けた行政の施策に関しては、前回同様に「より多くの住民が暴追運動に参加できるための警察と市が連携した安全対策の強化」「国の法整備」へのニーズが高い結果となった。

【市政モニターに関すること】

北九州市広報室広聴課（Tel：582-2527）

【アンケートに関すること】

北九州市市民文化スポーツ局安全・安心推進課（Tel：582-2911）